（様式第10）

番　2023-1044　号

令和　5 年　10 月　4 日

厚生労働大臣　殿

開設者名　国立大学法人金沢大学長
和 田 隆 志

国立大学法人金沢大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒920-1192 石川県金沢市角間町
氏名	国立大学法人金沢大学

（注） 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

国立大学法人金沢大学附属病院

3 所在の場所

〒920-8641 石川県金沢市宝町13番1号
電話（ 076 ） 265 ー 2000

4 診療科名

4ー1 標榜する診療科名の区分

	1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
	2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

（注） 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科							
内科と組み合わせた診療科名等							
○	1呼吸器内科	○	2消化器内科	○	3循環器内科	○	4腎臓内科
	5神経内科	○	6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科		10アレルギー疾患内科またはアレルギー科			○	11リウマチ科
診療実績							
脳神経内科、内分泌・代謝内科							

（注） 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

（2）外科

外科							
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科	○	3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
胃腸外科、肝臓・胆のう・膵臓・移植外科							

（注）　1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

（3）その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科		12放射線科
○	13放射線診断科	○	14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

（注）　標榜している診療科名に○印を付けること。

（4）歯科

歯科					
歯科と組み合わせた診療科名					
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科
歯科の診療体制					

（注）　1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

（5）（1）～（4）以外でその他に標榜している診療科名

1	形成外科	2	腫瘍内科	3	腫瘍外科	4	病理診断科	5	リハビリテーション科
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

（注）　標榜している診療科名について記入すること。

5　病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
38				792	830

（単位：床）

6　医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	391	134	482.4
歯科医師	8	8	13.7
薬剤師	55	2	56.5
保健師	0	0	0
助産師	25	0	25
看護師	878	7	882.1
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	2	0	2
管理栄養士	9	2	10.5

職種	員数
看護補助者	27
理学療法士	14
作業療法士	7
視能訓練士	11
義肢装具士	0
臨床工学士	20
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	42

職種		員数
診療エックス線技師		0
臨床検査	臨床検査技師	63
	衛生検査技師	2
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師		0
医療社会事業従事者		8
その他の技術員		19
事務職員		138
その他の職員		34

（注）　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7　専門の医師数

専門医名	人数（人）	専門医名	人数（人）
総合内科専門医	68	眼科専門医	12
外科専門医	44	耳鼻咽喉科専門医	11
精神科専門医	5	放射線科専門医	33
小児科専門医	22	脳神経外科専門医	8
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	15
泌尿器科専門医	13	麻酔科専門医	20
産婦人科専門医	17.0	救急科専門医	4
		合計	280

（注）　1　報告書を提出する年度の10月１日現在の員数を記入すること。
2　人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8　管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名　（　蒲田　敏文　　任命年月日　平成　28　年　4　月　1 日

平成28年度から医療安全管理委員会の委員長として出席している。

９　前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
１日当たり平均入院患者数	542.0　人	4.7　人	546.7　人
１日当たり平均外来患者数	1479.4　人	70.4　人	1549.9　人
１日当たり平均調剤数	1502.3　剤		
必要医師数	141.725　人		
必要歯科医師数	5　人		
必要薬剤師数	19　人		
必要（准）看護師数	327　人		

（注）　1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2　入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3　外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4　調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5　必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	462 ㎡	鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	22 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有
無菌病室等	［固定式の場合］	床面積	347 ㎡	病床数	27	床
	［移動式の場合］	台数	17 台			
医薬品情報管理室	［専用室の場合］	床面積	73 ㎡			
	［共用室の場合］	共用する室名				
化学検査室	523 ㎡		（主な設備）	免疫発光測定装置、全自動免疫測定装置、 ディスクリート方式臨床化学自動分析装置、検体前処理装置、蛋白分画電気泳動分析装置、免疫比濁測定装置、 全自動電気泳動分析装置、迅速糖尿病生理機能検査装置、 迅速糖化診断生理機能検査装置、自動浸透圧分析装置、 乾式臨床化学分析装置、自動化学分析装置、 大腸生理機能予備検査装置、 総合生理機能検査前輸血支援システム、 赤血球沈降速度測定装置、汎用血液ガス分析装置、 血液検査システム、呼気中13CO2分析装置、 臨床検査支援システム、恒温器、血液検査装置、 心疾患関連マーカー自動測定器システム、遠心機、 蒸留水製造装置、尿化学分析装置、顕微鏡、 精子特性分析機、マルチカラーフローサイトメトリー		
細菌検査室	94 ㎡		（主な設備）	血液培養装置、同定・薬剤感受性パネル自動測定装置、 全自動細菌検査システム、クリーンベンチ、 サーマルサイクラー、結核菌迅速診断装置、 マイクロチップ電気泳動システム、嫌気ワークステーション、 全自動遺伝子解析システム、遺伝子解析装置、恒温器、 炭酸ガス培養装置、遠心機、乾熱滅菌器、高圧滅菌器、 純水製造装置、顕微鏡、質量分析装置		
病理検査室	112 ㎡		（主な設備）	全自動免疫染色装置、自動固定包埋装置、自動染色装置		
病理解剖室	134 ㎡		（主な設備）	無影灯、解剖台、計量器		
研究室	674 ㎡		（主な設備）	血液ガス分析装置、マイクロプレートリーダー、 手術支援ロボット、超低温フリーザー 、バイオハザード対象用キャビネット、遠心分離機、 インキュベーター、高速タンパクブロッティングシステム、 オートクレーブ、クリーンベンチ、顕微鏡、蛍光実体顕微鏡、 薬用冷凍冷蔵庫、低温冷凍庫、ドラフト		
講義室	267 ㎡		室数	1 室	収容定員	300 人
図書室	166 ㎡		室数	1 室	蔵書数	4,400 冊程度

（注） 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11　紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	80.7	%	逆紹介率	73.0	%
算出根拠	A：紹介患者の数		11,737	人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		11,597	人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,097	人	
	D：初診の患者の数		15,886	人	

（注）　1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
森岡　浩一	福井大学医学部附属病院	○	医療安全管理部長として医療安全に関する業務に従事しているため	無	1
麻生　小夜	金沢あおば法律事務所		弁護士として法律に関する専門知識に基づき、業務を行っているため	無	1
和田　真由美	血液疾患の患者の会「萌の会」		「萌の会」の代表として活動しており、医療を受ける立場から意見を述べることができるため	無	2

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13　監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法 本院のWebサイトに掲載している。	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

1　承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数（人）
先進医療の種類の合計数	0
取扱い患者数の合計（人）	0

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類（注1）及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	0人
術後のカペシタビン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法	0人
陽子線治療	0人
糞便微生物叢移植	0人
アモキシシリン、ホスホマイシン及びメトロニダゾール経口投与並びに同種糞便微生物叢移植の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類の合計数	5
取扱い患者数の合計（人）	0

（注）1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準（平成二十年厚生労働省告示第百二十九号）第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

（注）2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

（様式第

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法	取扱患者数	0
当該医療技術の概要 腹膜播種陽性または腹腔細胞診陽性の胃癌症例を対象として、S-1＋パクリタキセル経静脈・腹腔内併用療法の安全性と有効性を評価する。			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

その他の高度医療の種類の合計数	1
取扱い患者数の合計（人）	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	52
2	筋萎縮性側索硬化症	12	72	下垂体性ADH分泌異常症	16
3	脊髄性筋萎縮症	2	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
4	原発性側索硬化症	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	6
5	進行性核上性麻痺	13	75	クッシング病	6
6	パーキンソン病	69	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
7	大脳皮質基底核変性症	3	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	20
8	ハンチントン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	58
9	神経有棘赤血球症	0	79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	80	甲状腺ホルモン不応症	0
11	重症筋無力症	80	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	8
12	先天性筋無力症候群	0	82	先天性副腎低形成症	0
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	46	83	アジソン病	2
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	16	84	サルコイドーシス	86
15	封入体筋炎	4	85	特発性間質性肺炎	42
16	クロウ・深瀬症候群	1	86	肺動脈性肺高血圧症	18
17	多系統萎縮症	9	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	13	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	26
19	ライソゾーム病	12	89	リンパ脈管筋腫症	6
20	副腎白質ジストロフィー	0	90	網膜色素変性症	6
21	ミトコンドリア病	5	91	バッド・キアリ症候群	2
22	もやもや病	27	92	特発性門脈圧亢進症	3
23	プリオン病	1	93	原発性胆汁性胆管炎	55
24	亜急性硬化性全脳炎	1	94	原発性硬化性胆管炎	8
25	進行性多巣性白質脳症	0	95	自己免疫性肝炎	25
26	HTLV-1関連脊髄症	0	96	クローン病	152
27	特発性基底核石灰化症	0	97	潰瘍性大腸炎	148
28	全身性アミロイドーシス	34	98	好酸球性消化管疾患	2
29	ウルリッヒ病	0	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
30	遠位型ミオパチー	0	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
31	ベスレムミオパチー	0	101	腸管神経節細胞僅少症	0
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	103	CFC症候群	0
34	神経線維腫症	17	104	コステロ症候群	0
35	天疱瘡	15	105	チャージ症候群	1
36	表皮水疱症	3	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
37	膿疱性乾癬（汎発型）	5	107	若年性特発性関節炎	5
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	3	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
39	中毒性表皮壊死症	0	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
40	高安動脈炎	23	110	ブラウ症候群	0
41	巨細胞性動脈炎	8	111	先天性ミオパチー	1
42	結節性多発動脈炎	19	112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0
43	顕微鏡的多発血管炎	20	113	筋ジストロフィー	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	13	114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	21	115	遺伝性周期性四肢麻痺	1
46	悪性関節リウマチ	11	116	アトピー性脊髄炎	0
47	バージャー病	7	117	脊髄空洞症	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	7	118	脊髄髄膜瘤	1
49	全身性エリテマトーデス	268	119	アイザックス症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	158	120	遺伝性ジストニア	0
51	全身性強皮症	337	121	神経フェリチン症	0
52	混合性結合組織病	38	122	脳表ヘモジデリン沈着症	0
53	シェーグレン症候群	55	123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0
54	成人スチル病	24	124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0
55	再発性多発軟骨炎	4	125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0
56	ベーチェット病	57	126	ペリー症候群	0
57	特発性拡張型心筋症	35	127	前頭側頭葉変性症	0
58	肥大型心筋症	27	128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0
59	拘束型心筋症	0	129	痙攣重積型（二相性）急性脳症	0
60	再生不良性貧血	82	130	先天性無痛無汗症	0
61	自己免疫性溶血性貧血	2	131	アレキサンダー病	0
62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4	132	先天性核上性球麻痺	0
63	特発性血小板減少性紫斑病	35	133	メビウス症候群	0
64	血栓性血小板減少性紫斑病	1	134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0
65	原発性免疫不全症候群	18	135	アイカルディ症候群	0
66	IgA 腎症	26	136	片側巨脳症	0
67	多発性嚢胞腎	13	137	限局性皮質異形成	0
68	黄色靱帯骨化症	13	138	神経細胞移動異常症	0
69	後縦靱帯骨化症	58	139	先天性大脳白質形成不全症	0
70	広範脊柱管狭窄症	2	140	ドラベ症候群	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	212	三尖弁閉鎖症	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	215	ファローー四徴症	0
145	ウエスト症候群	0	216	両大血管右室起始症	0
146	大田原症候群	1	217	エプスタイン病	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	218	アルポート症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	220	急速進行性糸球体腎炎	1
150	環状20番染色体症候群	0	221	抗糸球体基底膜腎炎	2
151	ラスムッセン脳炎	0	222	一次性ネフローゼ症候群	23
152	PCDH19関連症候群	0	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	224	紫斑病性腎炎	2
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	225	先天性腎性尿崩症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	226	間質性膀胱炎（ハンナ型）	3
156	レット症候群	0	227	オスラー病	3
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	228	閉塞性細気管支炎	0
158	結節性硬化症	1	229	肺胞蛋白症（自己免疫性又は先天性）	1
159	色素性乾皮症	0	230	肺胞低換気症候群	0
160	先天性魚鱗癬	1	231	α1ーアンチトリプシン欠乏症	1
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	232	カーニー複合	0
162	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	14	233	ウォルフラム症候群	0
163	特発性後天性全身性無汗症	9	234	ペルオキシソーム病（副腎白質ジストロフィーを除く。）	0
164	眼皮膚白皮症	0	235	副甲状腺機能低下症	0
165	肥厚性皮膚骨膜症	0	236	偽性副甲状腺機能低下症	0
166	弾性線維性仮性黄色腫	1	237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0
167	マルファン症候群	8	238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	4
168	エーラス・ダンロス症候群	2	239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0
169	メンケス病	0	240	フェニルケトン尿症	0
170	オクシピタル・ホーン症候群	0	241	高チロシン血症1型	0
171	ウィルソン病	4	242	高チロシン血症2型	0
172	低ホスファターゼ症	0	243	高チロシン血症3型	0
173	VATER症候群	0	244	メープルシロップ尿症	0
174	那須・ハコラ病	0	245	プロピオン酸血症	0
175	ウィーバー症候群	0	246	メチルマロン酸血症	0
176	コフィン・ローリー症候群	0	247	イソ吉草酸血症	0
177	ジュベール症候群関連疾患	0	248	グルコーストランスポーター1欠損症	0
178	モワット・ウィルソン症候群	0	249	グルタル酸血症1型	0
179	ウィリアムズ症候群	1	250	グルタル酸血症2型	0
180	ATRーX症候群	0	251	尿素サイクル異常症	0
181	クルーゾン症候群	0	252	リジン尿性蛋白不耐症	0
182	アペール症候群	0	253	先天性葉酸吸収不全	0
183	ファイファー症候群	0	254	ポルフィリン症	1
184	アントレー・ビクスラー症候群	0	255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0
185	コフィン・シリス症候群	0	256	筋型糖原病	0
186	ロスムンド・トムソン症候群	0	257	肝型糖原病	0
187	歌舞伎症候群	0	258	ガラクトースー１ーリン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0
188	多脾症候群	1	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
189	無脾症候群	0	260	シトステロール血症	2
190	鰓耳腎症候群	0	261	タンジール病	1
191	ウェルナー症候群	1	262	原発性高カイロミクロン血症	1
192	コケイン症候群	0	263	脳腱黄色腫症	0
193	プラダー・ウィリ症候群	0	264	無βリポタンパク血症	0
194	ソトス症候群	0	265	脂肪萎縮症	0
195	ヌーナン症候群	0	266	家族性地中海熱	1
196	ヤング・シンプソン症候群	0	267	高IgD症候群	0
197	1p36欠失症候群	0	268	中條・西村症候群	0
198	4p欠失症候群	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	1
199	5p欠失症候群	0	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0	271	強直性脊椎炎	29
201	アンジェルマン症候群	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
202	スミス・マギニス症候群	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
203	22q11.2欠失症候群	1	274	骨形成不全症	0
204	エマヌエル症候群	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
205	脆弱X症候群関連疾患	0	276	軟骨無形成症	1
206	脆弱X症候群	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
207	総動脈幹遺残症	0	278	巨大リンパ管奇形（頚部顔面病変）	0
208	修正大血管転位症	1	279	巨大静脈奇形（頚部口腔咽頭びまん性病変）	1
209	完全大血管転位症	0	280	巨大動静脈奇形（頚部顔面又は四肢病変）	1
210	単心室症	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
211	左心低形成症候群	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

4　指定難病についての診療

	疾　患　名	患者数		疾　患　名	患者数
283	後天性赤芽球癆	1	311	先天性三尖弁狭窄症	0
284	ダイアモンド・ブラックファン貧血	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
285	ファンコニ貧血	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
286	遺伝性鉄芽球性貧血	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
287	エプスタイン症候群	0	315	ネイルパテラ症候群（爪膝蓋骨症候群）／LMX1B関連腎症	1
288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0	316	カルニチン回路異常症	0
289	クロンカイト・カナダ症候群	0	317	三頭酵素欠損症	0
290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0	318	シトリン欠損症	0
291	ヒルシュスプルング病（全結腸型又は小腸型）	0	319	セピアプテリン還元酵素（SR）欠損症	0
292	総排泄腔外反症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール（GPI）欠損症	0
293	総排泄腔遺残	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
294	先天性横隔膜ヘルニア	0	322	β―ケトチオラーゼ欠損症	0
295	乳幼児肝巨大血管腫	0	323	芳香族L－アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
296	胆道閉鎖症	2	324	メチルグルタコン酸尿症	0
297	アラジール症候群	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
298	遺伝性膵炎	0	326	大理石骨病	0
299	嚢胞性線維症	0	327	特発性血栓症（遺伝性血栓性素因によるものに限る。）	4
300	IgG4関連疾患	27	328	前眼部形成異常	1
301	黄斑ジストロフィー	0	329	無虹彩症	1
302	レーベル遺伝性視神経症	0	330	先天性気管狭窄症／先天性声門下狭窄症	0
303	アッシャー症候群	0	331	特発性多中心性キャッスルマン病	8
304	若年発症型両側性感音難聴	0	332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
305	遅発性内リンパ水腫	0	333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
306	好酸球性副鼻腔炎	19	334	脳クレアチン欠乏症候群	0
307	カナバン病	0	335	ネフロン癆	0
308	進行性白質脳症	0	336	家族性低βリポタンパク血症1（ホモ接合体）	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	337	ホモシスチン尿症	0
310	先天異常症候群	0	338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0

（注）「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	133
合計患者数（人）	2737

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・重症患者初期支援充実加算
・歯科外来診療環境体制加算2	・報告書管理体制加算
・歯科診療特別対応連携加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・特定機能病院入院基本料（一般病棟）	・ハイリスク妊娠管理加算
・特定機能病院入院基本料（精神病棟）	・ハイリスク分娩管理加算
・救急医療管理加算1，2	・術後疼痛管理チーム加算
・超急性期脳卒中加算	・後発医薬品使用体制加算3
・診療録管理体制加算1	・病棟薬剤業務実施加算1
・医師事務作業補助体制加算1　　30対1	・病棟薬剤業務実施加算2
・急性期看護補助体制加算　25対1，夜間100対1急性期看護補助体制加算，夜間看護体制加算，看護補助体制充実加算	・データ提出加算
・看護職員夜間配置加算　12対1	・入退院支援加算2
・療養環境加算	・入院時支援加算
・重症者等療養環境特別加算	・地域連携診療計画加算
・無菌治療室管理加算1．2	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・放射線治療病室管理加算（治療用放射性同位元素による場合）	・精神疾患診療体制加算
・緩和ケア診療加算	・精神科急性期医師配置加算
・精神科応急入院施設管理加算	・排尿自立支援加算
・精神病棟入院時医学管理加算	・地域医療体制確保加算
・精神科身体合併症管理加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・精神科リエゾンチーム加算	・特定集中治療室管理料2
・摂食障害入院医療管理加算	・特定集中治療室管理料の注1に規定する算定上限日数に関する基準
・栄養サポートチーム加算	・早期栄養介入管理加算
・医療安全対策加算1	・早期離床・リハビリテーション加算
・感染対策向上加算1	・総合周産期特定集中治療室管理料 1．母体・胎児集中治療室管理料 2．新生児集中治療室管理料
・感染対策向上加算の注2に規定する指導強化加算	
・患者サポート体制充実加算	

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・新生児治療回復室入院医療管理料	・
・小児入院医療管理料2	・
・小児入院医療管理料の注5に掲げる無菌治療管理加算1	・
・小児入院医療管理料の注5に掲げる無菌治療管理加算2	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料（注3に掲げるがん専門管理栄養士が栄養食事指導を行う場合）	・ニコチン依存症管理料
・遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料）	・がん治療連携計画策定料
・高度難聴指導管理料	・がん治療連携管理料
・糖尿病合併症管理料	・外来排尿自立指導料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・がん患者指導管理料イ	・薬剤管理指導料
・がん患者指導管理料ロ	・地域連携診療計画加算
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料1
・外来緩和ケア管理料	・医療機器安全管理料2
・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	・医療機器安全管理料（歯科）
・移植後患者指導管理料（臓器移植後）	・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療総合医療管理料及び歯科治療総合医療管理料
・糖尿病透析予防指導管理料	・禁煙治療補助システム指導管理加算
・高度腎機能障害患者指導加算	・救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
・乳腺炎重症化予防・ケア指導料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）
・一般不妊治療管理料	・皮下連続式グルコース測定
・二次性骨折予防継続管理料1	・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
・二次性骨折予防継続管理料3	・造血器腫瘍遺伝子検査
・下肢創傷処置管理料	・遺伝学的検査
・院内トリアージ実施料	・骨髄微小残存病変量測定
・外来リハビリテーション診療料	・染色体検査の注2に規定する基準
・外来放射線照射診療料	・BRCA1／2遺伝子検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来腫瘍化学療法診療料の注6に規定する連携充実加算	・先天性代謝異常症検査
・連携充実加算	・抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施 設 基 準 の 種 類	施 設 基 準 の 種 類
・抗HLA抗体（スクリーニング検査）	・遠隔画像診断
・抗HLA抗体（抗体特異性同定検査）	・CT撮影及びMRI撮影
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）	・冠動脈CT撮影加算
・検体検査管理加算（Ⅳ）	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・国際標準検査管理加算	・大腸CT撮影加算
・遺伝カウンセリング加算	・心臓MRI撮影加算
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・乳房MRI撮影加算
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・小児鎮静下MRI撮影加算
・植込型心電図検査	・頭部MRI撮影加算
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・全身MRI撮影加算
・胎児心エコー法	・肝エラストグラフィ加算
・ヘッドアップティルト試験	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・人工膵臓検査	・外来化学療法加算1
・長期継続頭蓋内脳波検査	・無菌製剤処理料
・神経学的検査	・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
・補聴器適合検査	・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
・黄斑局所網膜電図	・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
・全視野精密網膜電図	・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
・ロービジョン検査判断料	・がん患者リハビリテーション料
・小児食物アレルギー負荷検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・内服・点滴誘発試験	・療養生活継続支援加算
・経気管支凍結生検法	・救急患者精神科継続支援料
・口腔細菌定量検査	・認知療法・認知行動療法1
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ及び咀嚼能力検査	・精神科作業療法
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ及び咬合圧検査	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
・画像診断管理加算3	・医療保護入院等診療料

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）	・網膜再建術
・人工腎臓　　慢性維持透析を行った場合1	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
・一酸化窒素吸入療法	・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）
・CAD／CAM冠	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・センチネルリンパ節生検（片側）	・内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
・皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・喉頭形成手術（甲状軟骨固定器具を用いたもの）
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算 ・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、及び下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）
・椎間板内酵素注入療法	・顎関節人工関節全置換術（歯科）
・腫瘍脊椎骨全摘術	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・乳腺悪性腫瘍手術（乳がんセンチネルリンパ節加算1，又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。）
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・乳腺悪性腫瘍手術（乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳頭乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
・角結膜悪性腫瘍切除術	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・角膜移植術（内皮移植加算）	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術及び胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・羊膜移植術	・肺悪性腫瘍手術（壁側・臓側胸膜全切除（横隔膜、心膜合併切除を伴うもの）に限る。）
・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるものに限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
・緑内障手術（流出路再建術（眼内法）	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・緑内障手術（濾過胞再建術（needle 法））	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腟腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	・ダメージコントロール手術
・経皮的冠動脈形成術	・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開後腹膜悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開副腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開尿管腫瘍摘出術、腹腔鏡下小切開腎（尿管）悪性腫瘍手術、腹腔鏡下小切開膀胱腫瘍摘出術及び腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）	
・経皮的冠動脈ステント留置術	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
・胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・経皮的カテーテル大動脈弁置換術	・腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・不整脈手術　左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの）	・腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）
・不整脈手術　左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・経皮的中隔心筋焼灼術	・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・体外衝撃波胆石破砕術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）	・腹腔鏡下肝切除術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・移植用部分肝採取術（生体）（腹腔鏡によるもの）
・両心室ﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ﾍﾟｰｽﾒｰｶｰ交換術（経静脈電極の場合）	・生体部分肝移植術
・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術	・同種死体肝移植術
・両室ﾍﾟｰｼﾝｸﾞ機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ﾍﾟｰｼﾝｸﾞ機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）	・体外衝撃波膵石破砕術（一連につき）
・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・補助人工心臓	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術　腹腔鏡下膵頭十二指腸部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合を除く。）
・経皮的下肢動脈形成術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・経皮的大動脈遮断術	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療科）

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・コーディネート体制充実加算
・副腎腫瘍ラジオ波焼灼療法	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腎腫瘍凝固・焼灼術（冷凍凝固によるもの）	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・麻酔管理料（Ⅰ）
・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・麻酔管理料（Ⅱ）
・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・周術期薬剤管理加算
・同種死体腎移植術	・放射線治療専任加算
・生体腎移植術	・外来放射線治療加算
・膀胱水圧拡張術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・強度変調放射線治療（IMRT）
・人工尿道括約筋植込・置換術	・画像誘導放射線治療加算（IGRT）
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下仙骨膣固定術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・定位放射線治療
・腹腔鏡下膣式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）	・病理診断管理加算2
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・体外式膜型人工肺管理料	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6（歯科点数表第2章第9部通則4を含む。）に掲げる手術	・
・胃瘻造設術（内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）	・
・医科点数表第2章第10部 手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）	・
・医科点数表第2章第10部 手術の通則の19に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術に限る。）	・
・輸血管理料Ⅱ	・

（様式第2）

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術	・
・LDLアフェレシス療法	・
・流産検体を用いた染色体検査	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療（当該病院において提供していたものに限る。）から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	一ヶ月に24回	
剖検の状況	剖検症例数（例）	21
	剖検率（%）	9%

（注） 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
精神・神経疾患の認知予備力評価法の開発：神経心理学的メカニズムの解明のために	松井 三枝	GS教育系	4,180,113	○補 委	日本学術振興会
キラルアミノ酸による糖尿病性腎症の病態解明と新規バイオマーカー開発	和田 隆志	その他部局等	1,900,000	○補 委	日本学術振興会
感情障害における感情認識と感情制御の連関と神経基盤の因果的役割	吉村 晋平	人間科学系	700,000	○補 委	日本学術振興会
加齢による薬物体内動態の個人間変動予測の新機軸	崔 吉道	附属病院	150,000	○補 委	日本学術振興会
CD271陽性エリート細胞を標的とした肺高血圧症に対する新規治療開発	薄井 荘一郎	医学系	500,000	○補 委	日本学術振興会
連続肝生検組織を用いた非アルコール性脂肪性肝疾患の病理進展因子の同定	竹下 有美枝	医学系	500,000	○補 委	日本学術振興会
頭頸部癌に対する癌代謝制御に基づく革新的治療技術の確立	遠藤 一平	附属病院	500,000	○補 委	日本学術振興会
PAX2ヘテロ遺伝子異常から読み解く内耳発生機構	杉本 寿史	医学系	800,000	○補 委	日本学術振興会
末梢動脈疾患ハイリスク患者への振動ケアがもたらす重症虚血肢移行遷延効果の検討	大桑 麻由美	保健学系	340,000	○補 委	日本学術振興会
胸部・腰部・骨盤の3次元変位装置を用いた介助動作解析	柴田 克之	保健学系	400,000	○補 委	日本学術振興会

行動柔軟性における大脳基底核と小脳の連関に関するリハビリテーション技術の基礎研究	米田　貢	保健学系	400,000	○補委	日本学術振興会
一般住民への食生活介入の高尿酸血症及び慢性腎臓病に対する1次予防効果の検討	宮城　栄重	附属病院	500,000	○補委	日本学術振興会
医薬品個別化適正使用のための薬物代謝酵素活性を定量測定する新規核医学診断法の確立	水谷　明日香	保健学系	900,000	○補委	日本学術振興会
モデルマウスを用いたIgG4関連動脈/後腹膜疾患特異的病態の解明と治療法の確立	水島　伊知郎	附属病院	1,000,000	○補委	日本学術振興会
頭頸部癌血中循環腫瘍細胞の基礎的検討	上野　貴雄	附属病院	900,000	○補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症幼児の脳活動の機能別特徴に対応する症状多様性の検討	菊知　充	医学系	6,900,000	○補委	日本学術振興会
治療後微小残存する白血病幹細胞に対する新規治療標的の開発	宮本　敏浩	医学系	3,843,010	○補委	日本学術振興会
分子疫学的コホート研究による遺伝性心血管疾患のリスク層別化・病態解明・治療薬探索	藤野　陽	保健学系	2,710,000	○補委	日本学術振興会
概日リズムに基づく妊娠・産褥期セルフケアプログラムの開発−光と食による制御の検討	毎田　佳子	保健学系	5,050,000	○補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症幼児における意図共有の脳内基盤と初期の言語獲得過程の関連	吉村　優子	学校教育系	1,262,525	○補委	日本学術振興会
認知機能からみたこころの健康へのアプローチ：予防とレジリエンスのために	松井　三枝	GS教育系	17,692,116	○補委	日本学術振興会
急性期病院での高齢患者のせん妄の早期発見・介入を目指した心理的支援モデルの構築	水上　喜美子	医学系	600,000	○補委	日本学術振興会

HSF-1 が関与する中枢神経再生へのカスケード反応	杉谷　加代	保健学系	900,000	○補委	日本学術振興会
DICの多発血栓形成プロセスで鍵となる線溶病態の解明と新規治療戦略の提案	菅　幸生	薬学系	1,200,000	○補委	日本学術振興会
薬剤師のポリファーマシーへの介入は認知機能低下やフレイルを予防・改善できるか	石崎　純子	薬学系	700,000	○補委	日本学術振興会
病態背景が経皮吸収型製剤の経皮アベイラビリティにおよぼす影響	嶋田　努	附属病院	675,000	○補委	日本学術振興会
人工知能を用いた機能画像と臨床情報の統合による高性能診断予後評価モデルの構築	中嶋　憲一	先進予防医学研究科	800,000	○補委	日本学術振興会
MRIと深層学習を併用した新規乳癌悪性度解析法の確立:オーダーメイド治療への展開	川島　博子	保健学系	450,000	○補委	日本学術振興会
転移性肝癌に対する陽子線治療後画像変化と治療効果判定方法の研究	高松　繁行	医学系	500,000	○補委	日本学術振興会
悪性腫瘍におけるテロメア伸長及び放射線内照射治療への影響に関する研究	稲木　杏吏	附属病院	1,050,000	○補委	日本学術振興会
フローサイトメトリーを用いたI-131 MIBG治療後骨髄抑制予測法の確立	若林　大志	附属病院	900,000	○補委	日本学術振興会
膵癌腫瘍内微小環境に着目した術後予後予測に関する新規画像バイオマーカーの確立	井上　大	附属病院	700,000	○補委	日本学術振興会
血中IL-18の異常高値で特徴付けられる疾患群の病態解明と治療法開発	和田　泰三	医学系	700,000	○補委	日本学術振興会
腸内細菌叢関連凝固異常を標的とした難治性門脈血栓症の治療法の開発	鷹取　元	附属病院	700,000	○補委	日本学術振興会

ALK肺がんのアポトーシス抵抗性因子を標的とした新規治療の開発	竹内　伸司	附属病院	1,200,000	○補委	日本学術振興会
線維化組織微小環境の制御による慢性腎臓病進展機序の解明と臨床応用	坂井　宣彦	附属病院	1,000,000	○補委	日本学術振興会
自己免疫性造血不全における新たな免疫回避機構による造血制御変容の基盤的解明	片桐　孝和	保健学系	1,050,000	○補委	日本学術振興会
トロンボポエチン受容体作動薬ロミプロスチムの造血への影響とDNA修復効果の検証	石山　謙	附属病院	1,000,000	○補委	日本学術振興会
SLIT有効性機序のIgG親和性成熟の解明と抗体誘導型舌下ワクチンのPOC取得	渡部　良広	附属病院	1,200,000	○補委	日本学術振興会
大動脈解離に対する腹部分枝再建可能なre-entry閉鎖用ステントグラフトの開発	木村　圭一	附属病院	1,000,000	○補委	日本学術振興会
覚醒下脳手術による意欲関連ネットワークの解明	木下　雅史	医学系	300,000	○補委	日本学術振興会
靭帯分泌組織による靭帯再生能および治癒促進効果の解明	中瀬　順介	附属病院	200,000	○補委	日本学術振興会
転移性骨・脊椎腫瘍に対する局所凍結療法のがん特異的免疫増強効果の検証	加藤　仁志	附属病院	700,000	○補委	日本学術振興会
悪性軟部腫瘍個別化療法のための新規同所移植モデル確立とその機能解析	山本　憲男	医薬保健学総合研究科	600,000	○補委	日本学術振興会
日本人の解剖学的骨盤形態に適合した人工股関節再置換用寛骨臼再建補強プレートの開発	加畑　多文	医学系	1,150,000	○補委	日本学術振興会
男性膀胱癌患者を対象とした尿路HPV感染の自然史の解明と膀胱癌発生との関連性	重原　一慶	附属病院	500,000	○補委	日本学術振興会

腎細胞癌におけるIO薬効果予測因子の基礎的・臨床的探索	角野　佳史	医学系	700,000	○補委	日本学術振興会
乳癌患者におけるタモキシフェンによる子宮内膜器質性変化の解析と妊孕性に及ぼす影響	山崎　玲奈	附属病院	550,000	○補委	日本学術振興会
口腔扁平上皮癌のエクソソームを介した腫瘍進展機序の解明	加藤　広禄	医学系	700,000	○補委	日本学術振興会
仮想現実と経頭蓋直流電気刺激を用いた新たなリハビリテーションの開発	久保田　雅史	保健学系	150,000	○補委	日本学術振興会
複合型高脂血症発症に関与する肝性リパーゼ活性・内因性リパーゼインヒビターの役割	稲津　明広	保健学系	600,000	○補委	日本学術振興会
自閉症スペクトラムの友達作りに関するスキルトレーニングの教育現場への応用	田中　早苗	子どものこころの発達研究センター	700,000	○補委	日本学術振興会
難治性神経疾患患者の流涎に対する薬物療法のエビデンス創出	石田　奈津子	薬学系	1,000,000	○補委	日本学術振興会
再発・悪性髄膜腫におけるVEGFR-2のシグナル伝達経路の解明	中田　聡子	附属病院	600,000	○補委	日本学術振興会
近接ジオメトリ方式による超高解像度CTの応用技術開発	川嶋　広貴	保健学系	400,000	○補委	日本学術振興会
ピロリン酸シンチグラフィの三次元定量評価を用いた心アミロイドーシス診断の研究	渡辺　悟	先進予防医学研究科	800,000	○補委	日本学術振興会
高等哺乳動物を用いた胎児脳回形成異常に関与するシグナル経路の解明	水口　敬司	附属病院	900,000	○補委	日本学術振興会
肝細胞癌・膵癌・胆道癌における腫瘍局所の免疫プロファイルの意義の解明	寺島　健志	先進予防医学研究センター	1,400,000	○補委	日本学術振興会

がん免疫療法研究に寄与する革新的な肝胆膵がん免疫系ヒト化マウスモデルの開発	丹尾　幸樹	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
後天性の家族性造血不全における免疫病態の解明	井美　達也	医学系	800,000	○補委	日本学術振興会
血行性転移における活性化血小板を基軸とした自然免疫回避の解明	岡崎　充善	附属病院	1,000,000	○補委	日本学術振興会
軟部肉腫に対する患者由来腫瘍同所移植マウスモデルを用いた個別化医療の開発	五十嵐　健太郎	医薬保健学総合研究科	800,000	○補委	日本学術振興会
鶏卵モデルを用いた喉頭乳頭腫難治化要因の解明	中西　庸介	医学系	600,000	○補委	日本学術振興会
関節軟骨の廃用症候群における運動療法の確立と変形性関節症の発症に及ぼす影響	高橋　郁文	附属病院	400,000	○補委	日本学術振興会
機械学習を用いたCKD未病状態における新規病型分類と治療効果	遠山　直志	附属病院	600,000	○補委	日本学術振興会
B型・D型肝炎ウイルス共感染が引き起こす肝疾患の分子生物学的機序の解明	島上　哲朗	附属病院	2,600,000	○補委	日本学術振興会
糖尿病性腎臓病の抗エリスロポエチン受容体抗体の国際的バイオマーカー確立と国際比較	和田　隆志	その他部局等	4,300,000	○補委	日本学術振興会
人種間の他者理解脳内ネットワーク解析と覚醒下手術への応用	中田　光俊	医学系	3,100,000	○補委	日本学術振興会
ナトリウム共役能動輸送型糖輸送体を標的としたセラノスティクス薬剤の開発	小林　正和	保健学系	2,400,000	○補委	日本学術振興会
深層学習による画像情報を主軸にした包括的な肺機能診断法の確立	田中　利恵	AIホスピタル・マクロシグナルダイナミクス研究開発センター（保）	3,840,000	○補委	日本学術振興会

肝細胞がんにおける多細胞間相互作用の解明による新規がん免疫療法開発の基盤研究	水腰　英四郎	医学系	3,500,000	○補委	日本学術振興会
上皮、間葉系肝癌幹細胞による間質細胞リプログラミングの解明とその診断治療への応用	山下　太郎	医学系	4,100,000	○補委	日本学術振興会
Bloom症候群モデルマウスを用いた血液腫瘍発症を予防する遺伝子治療前臨床試験	伊川　泰広	医学系	1,500,000	○補委	日本学術振興会
臓器移植・造血幹細胞移植におけるHLAエピトープに基づく新規バイオマーカー開発	八木　真太郎	医学系	6,900,000	○補委	日本学術振興会
地域住民コホートゲノム情報及び生活習慣情報を用いた動脈硬化性疾患個別化医療の開発	高村　雅之	医学系	2,600,000	○補委	日本学術振興会
言語機能回復に伴う脳内ネットワーク再組織化の構造的メカニズムの解明	中嶋　理帆	保健学系	3,000,000	○補委	日本学術振興会
肝微小環境の構造理解に基づく新たな代謝性肝疾患治療の確立	本多　政夫	保健学系	5,000,000	○補委	日本学術振興会
新規胚シグナルlaeverinの幹細胞と免疫システムに対する作用の解明と臨床応用	藤原　浩	医学系	3,300,000	○補委	日本学術振興会
患者B細胞を利用した新規抗HLAモノクローナル抗体、CAR-T細胞の臨床開発	高松　博幸	融合科学系	1,200,000	○補委	日本学術振興会
超音波診断装置を用いて脂肪由来幹細胞を経時的に複数回投与した自家神経移植の研究	多田　薫	保健学系	400,000	○補委	日本学術振興会
認知症における新規病態解明ならびにバイオマーカー開発	中出　祐介	附属病院	600,000	○補委	日本学術振興会
心機能評価の精度管理を目的とした三次元心動態ファントムと標準化ガイドラインの構築	小野口　昌久	保健学系	750,000	○補委	日本学術振興会

肝細胞癌のradiomicsに基づく薬物治療効果予測	北尾　梓	附属病院	800,000	○補委	日本学術振興会
肝癌治療効果を予測するための肝癌内細菌かつ腸内細菌を用いたバイオマーカーの開発	飯田　宗穂	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
遺伝性不整脈症候群の病原性遺伝子変異の決定とそれに基づく個別化医療の実現	林　研至	保健学系	950,000	○補委	日本学術振興会
末梢血遺伝子発現解析による心房細動器質予測法の開発	加藤　武史	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
腸管免疫の破綻を基とした糖尿病性腎症進行の病態解明	岩田　恭宜	附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
免疫グロブリン軽鎖による腎障害の病態解明	伊藤　清亮	医薬保健学総合研究科	900,000	○補委	日本学術振興会
免疫沈降法ーウェスタンブロッティング法を用いた膠原病関連自己抗体の同定	濱口　儒人	医学系	600,000	○補委	日本学術振興会
HLA-DR15欠失血球陽性再生不良性貧血における免疫病態の解明	細川　晃平	附属病院	1,200,000	○補委	日本学術振興会
IgG4関連腎臓病における三次リンパ組織形成を介した病変進展と線維化機序の解明	川野　充弘	附属病院	650,000	○補委	日本学術振興会
非乳頭部十二指腸腫瘍におけるERBB受容体ファミリーの解析とバイオマーカー開発	中村　慶史	附属病院	1,200,000	○補委	日本学術振興会
大伏在静脈周囲組織がグラフト血管内皮機能に与える影響に関する研究	飯野　賢治	附属病院	800,000	○補委	日本学術振興会
グルタールアルデヒド固定処理自家心膜導管を用いた生体内組織再生誘導型気管再建	吉田　周平	附属病院	940,000	○補委	日本学術振興会

脳動脈瘤再発予防に向けた数値流体力学解析によるステント併用コイル塞栓術の開発	見崎　孝一	附属病院	1,000,000	○補委	日本学術振興会
神経膠腫におけるエクソソームを介した新規治療の開発	筒井　泰史	附属病院	800,000	○補委	日本学術振興会
RBPJの発現レベルに影響される膠芽腫の細胞形質転換とテモゾロミドの反応性	田中　慎吾	医学系	1,100,000	○補委	日本学術振興会
骨軟部肉腫における腫瘍免疫状態の解明と新規免疫療法の開発	三輪　真嗣	医学系	1,000,000	○補委	日本学術振興会
液体窒素を用いた腫瘍処理骨再建術における処理骨周囲膜組織の機能解明	淺野　陽平	附属病院	400,000	○補委	日本学術振興会
自家脂肪由来幹細胞シートを用いた革新的な巨大骨欠損再建法の開発	下川　寛右	附属病院	500,000	○補委	日本学術振興会
骨肉腫幹細胞モデルと微小環境のクロストークの解明とそれらを標的にした治療戦略	武内　章彦	附属病院	1,150,000	○補委	日本学術振興会
栄養膜細胞特異抗原を用いた末梢血循環腫瘍細胞の検出と新規転移抑制治療法の開発	松本　多圭夫	附属病院	700,000	○補委	日本学術振興会
EBウイルスによるDNAメチル化誘導機構の解明と新規上咽頭癌治療法の開発	近藤　悟	附属病院	900,000	○補委	日本学術振興会
原発性アルドステロン症における網膜神経節細胞死―その機序と緑内障との比較―	杉山　和久	医学系	500,000	○補委	日本学術振興会
眼圧日内変動に対するメラトニン系の役割の解明	東出　朋巳	医学系	1,100,000	○補委	日本学術振興会
改変型TIMP-3を用いた選択的軟骨破壊阻害による進行性下顎頭吸収の抑制	大井　一浩	附属病院	1,000,000	○補委	日本学術振興会

院外心停止に対する現場蘇生中止基準の開発研究	後藤　由和	医学系	1,100,000	○補委	日本学術振興会
AIアプリPHRとVRを活用した3Dオンライン診療システムの構築	米田　隆	融合科学系	1,100,000	○補委	日本学術振興会
ハイリスクアプローチ基盤の地域支援者向け自殺予防教育プログラムの開発	田中　浩二	保健学系	590,000	○補委	日本学術振興会
片麻痺プッシャー現象の客観的評価法と感覚参照系を踏まえた治療法の開発	淺井　仁	保健学系	400,000	○補委	日本学術振興会
縦型オープンMRIによる骨盤底筋群と股関節周囲筋の共同収縮機序の解明	間所　祥子	保健学系	680,000	○補委	日本学術振興会
網羅的D-アミノ酸解析による伝統的発酵食品と健康長寿・腎保護との関連性解明	北島　信治	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
ヒト皮下脂肪間質細胞を用いた拍動心筋細胞の心不全治療応用へ向けた研究	高島　伸一郎	医学系	1,000,000	○補委	日本学術振興会
安静時の膝伸筋群の超音波画像を用いた広範囲年齢層の膝伸筋最大筋力の推定	三秋　泰一	保健学系	100,000	○補委	日本学術振興会
EGFR変異肺がんにおいて併存するRBM10遺伝子変異の機能解析	南條　成輝	がん進展制御研究所	1,200,000	○補委	日本学術振興会
大腸癌肝転移に対して免疫原性細胞死がabscopal効果に及ぼす影響の研究	齋藤　裕人	附属病院	700,000	○補委	日本学術振興会
アルツハイマー病ハイリスク地域住民の海馬容積に注目した防御的生活習慣因子の探索	小松　潤史	医薬保健学総合研究科	200,000	○補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症の症状を改善する生活習慣の検討ー加速度計を用いた検討ー	内藤　暢茂	附属病院	900,000	○補委	日本学術振興会

心臓専用半導体SPECTを用いた複数分子同時収集の物理因子解明と補正技術の確立	澁谷　孝行	保健学系	700,000	○補委	日本学術振興会
肝腫瘍画像診断の標準化診断法における新WHO分類に基づく病理組織学的根拠の確立	五十嵐　紗耶	附属病院	800,000	○補委	日本学術振興会
分子標的薬併用による甲状腺癌内用療法不応性患者に対する次世代治療戦略の検証	廣正　智	附属病院	1,200,000	○補委	日本学術振興会
小児脊柱側弯症患者の全脊椎X線CT検査における低線量プロトコルの開発	高田　忠徳	附属病院	400,000	○補委	日本学術振興会
アンスラサイクリン系抗がん剤心筋症における不可逆性に関するメカニズムの解明	下島　正也	附属病院	1,800,000	○補委	日本学術振興会
心房細動のリスク因子探索と高齢者への最適治療戦略構築をめざす大規模コホート研 究	津田　豊暢	附属病院	400,000	○補委	日本学術振興会
非侵襲的に記録された皮膚交感神経活動の心房細動治療における役割の解明	草山　隆志	附属病院	500,000	○補委	日本学術振興会
肺胞マクロファージによる2型肺胞上皮細胞の増殖・分化制御機構の解明	渡辺　知志	医薬保健学総合研究科	1,400,000	○補委	日本学術振興会
再生不良性貧血における7番染色体欠失クローン進展機序の解明	材木　義隆	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
カバジタキセル耐性獲得におけるケモカインと免疫機構の作用機序の解明	岩本　大旭	附属病院	1,500,000	○補委	日本学術振興会
リンパ節転移微小環境における癌進展機構に立脚したリンパ節修飾薬の開発	八重樫　洋	附属病院	1,800,000	○補委	日本学術振興会
ヒト絨毛外栄養膜特異抗原による新しい免疫制御作用と妊娠高血圧腎症早期診断への応用	飯塚　崇	医学系	1,400,000	○補委	日本学術振興会

細胞競合現象に基づく上咽頭癌発癌機構の解析と、新規治療法の開発	小森　岳	附属病院	1,200,000	○補委	日本学術振興会
上咽頭癌における新規バイオマーカーの開発と臨床応用	平井　信行	附属病院	500,000	○補委	日本学術振興会
概日リズム障害は緑内障発症を誘導するか？	土屋　俊輔	附属病院	1,000,000	○補委	日本学術振興会
地域脳健診での認知症発症と口腔機能の関連解析	石宮　舞	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
West症候群の早期診断を目指したオンライン動画診断支援システムの確立	黒田　文人	附属病院	900,000	○補委	日本学術振興会
新型コロナウイルス感染症流行によるステイホームがロコモに与える影響	黒川　由貴	附属病院	600,000	○補委	日本学術振興会
高速原子間力顕微鏡によるキラルアミノ酸代謝の可視化解析	和田　隆志	その他部局等	2,500,000	○補委	日本学術振興会
連続肝生検アプローチによる糖尿病性脂肪肝炎のバイオマーカー探索	篁　俊成	医学系	1,600,000	○補委	日本学術振興会
新規生物学的コンセプトを応用した頭頸部ウイルス発癌超早期治療法の開発	吉崎　智一	医学系	1,200,000	○補委	日本学術振興会
ポストAR時代の治療戦略構築に向けたアンドロゲン非依存前立腺癌進展機構の解明	溝上　敦	医学系	1,900,000	○補委	日本学術振興会
回復期待度による新規リハビリテーション指針確立に向けた白質神経線維の可塑性の解明	中嶋　理帆	保健学系	2,000,000	○補委	日本学術振興会
個別化医療の臨床応用を目指した胆道癌同所移植マウスモデルの開発	高田　智司	附属病院	1,200,000	○補委	日本学術振興会

上咽頭癌におけるエクソソームへのPD-L1分泌を介した抗PD-1抗体耐性機構	小林　英士	医学系	1,200,000	○補委	日本学術振興会
膠芽腫医療に抜本的変革をもたらす血液バイオマーカーの分子基盤の構築	中田　光俊	医学系	7,000,000	○補委	日本学術振興会
原発性アルドステロン症における新治療戦略ー安全かつ高奏功な根本治療の開発	絹谷　清剛	医学系	2,800,000	○補委	日本学術振興会
治療耐性膵がんの悪性形質を繋ぐ分子経路の解明と耐性制御法開発への応用	源　利成	がん進展制御研究所	4,600,000	○補委	日本学術振興会
地域住民コホート研究を用いた先進的ゲノム解析による心不全超精密個別化医療開発	多田　隼人	附属病院	4,800,000	○補委	日本学術振興会
揺動MRIによる睡眠時グリンファティックシステム活性度解析法の開発	岡本　里穂	附属病院	480,000	○補委	日本学術振興会
MRIバイオマーカを使用した腎腫瘍の非侵襲的良悪性鑑別法の開発	牧野　有希	附属病院	450,000	○補委	日本学術振興会
簡便に検査可能なウェアラブル筋電計を用いた睡眠時ブラキシズムの基準値に関する研究	中田　晶子	附属病院	440,000	○補委	日本学術振興会
一側性難聴者の軟骨伝導補聴器による語音聴取改善に関する研究	永井　理紗	附属病院	350,000	○補委	日本学術振興会
自閉スペクトラム症児の言語特性の神経基盤の検討・支援法に関する研究	吉村　優子	学校教育系	700,000	○補委	日本学術振興会
神経筋難病患者における筋肉の量的、質的変化が薬物治療に及ぼす影響の定量的解明	松下　良	薬学系	1,100,000	○補委	日本学術振興会
膵癌高危険群における膵液中マイクロRNAとエピゲノム解析による早期診断法の確立	大坪　公士郎	附属病院	600,000	○補委	日本学術振興会

Bloom症候群モデルマウスを用いた血液腫瘍発症を予防する遺伝子治療前臨床試験	伊川　泰広	医学系	600,000	○補委	日本学術振興会
遺伝性血栓症の病因（オミックス解析）と病態の解明	森下　英理子	保健学系	400,000	○補委	日本学術振興会
高速原子間力顕微鏡を用いた凝集タンパクのクロス・シーディング効果の時空間的観察	小野　賢二郎	医学系	800,000	○補委	日本学術振興会
統合失調症と気分障害における作業記憶ネットワーク障害のニューロンメカニズム	川端　梨加	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
高リスク神経芽腫に対する超効果的・効率的核医学治療法の開発	萱野　大樹	医学系	900,000	○補委	日本学術振興会
肝腫瘍におけるvessel co-optionのイメージバイオマーカーの開発	小坂　一斗	附属病院	1,000,000	○補委	日本学術振興会
内視鏡医を対象とした線量計一体型放射線防護眼鏡の開発	松原　孝祐	保健学系	1,100,000	○補委	日本学術振興会
拡散MRIと位相コントラスト法を組み合わせた新たな脳血流定量イメージングの確立	大野　直樹	保健学系	850,000	○補委	日本学術振興会
小児多系統炎症性症候群の免疫学的解析とバイオマーカー探索	松田　裕介	医学系	1,300,000	○補委	日本学術振興会
新生児ヘモクロマトーシスの原因となるアロ抗体同定とIVIG治療の理論的基盤の確立	谷内江　昭宏	附属病院	1,900,000	○補委	日本学術振興会
炎症性腸疾患の遺伝学的病型診断と個別化治療に関する研究	山田　真也	附属病院	2,100,000	○補委	日本学術振興会
T細胞受容体遺伝子と免疫チェックポイント阻害薬による肝がん新規治療開発	中河　秀俊	医学系	600,000	○補委	日本学術振興会

肝がんにおける循環癌間質細胞の特性と臨床的意義の探索	山下　竜也	先進予防医学研究センター	500,000	○補委	日本学術振興会
全身性強皮症におけるB細胞の包括的解析	松下　貴史	医学系	1,300,000	○補委	日本学術振興会
軽鎖沈着症を生じるM蛋白の構造的・機能的"質"の解明	西岡　亮	附属病院	950,000	○補委	日本学術振興会
膵癌個別化治療のための血小板を利用した新たなバイオマーカーの確立	牧野　勇	附属病院	900,000	○補委	日本学術振興会
大血管手術後の脊髄虚血に関するバイオマーカーの測定と探索	竹村　博文	医学系	650,000	○補委	日本学術振興会
ビタミンB2を用いた生体組織の血流診断法の開発	齋藤　大輔	附属病院	1,250,000	○補委	日本学術振興会
敗血症性心筋障害におけるエンドセリンA受容体拮抗薬の効果と機序の解明	岡島　正樹	医学系	800,000	○補委	日本学術振興会
ＤＩＣにおける炎症と凝固の相互作用と血管作動性物質の制御	朝倉　英策	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
代用音声による人工呼吸器装着患者とのコミュニケーション促進	佐藤　康次	附属病院	1,900,000	○補委	日本学術振興会
脳動脈瘤破裂に関わるRAGEの役割についての検証	上出　智也	医学系	1,600,000	○補委	日本学術振興会
脊椎腫瘍に対する凍結融解壊死治療の安全性の確立および脊髄保護対策	出村　諭	附属病院	600,000	○補委	日本学術振興会
人工関節周囲感染予防における理想的な希釈ポビドンヨード術中洗浄液の使用方法の確立	井上　大輔	医学系	700,000	○補委	日本学術振興会

糖尿病による骨癒合遅延に対する糖化ストレス解消療法の開発	松原　秀憲	附属病院	900,000	○補委	日本学術振興会
骨軟部腫瘍における微小環境の解明と新規治療標的の探索	土屋　弘行	医学系	1,000,000	○補委	日本学術振興会
脂肪由来幹細胞を用いた骨関節感染症治療用バイオインプラントの開発	林　克洋	医薬保健学総合研究科	800,000	○補委	日本学術振興会
KRAS活性を介したダブルネガティブ去勢抵抗性前立腺癌進展機構の解明	泉　浩二	附属病院	1,200,000	○補委	日本学術振興会
マウス胎盤ラビリンス層に出現する新規GLAST陽性細胞の機能解析	鏡　京介	附属病院	800,000	○補委	日本学術振興会
フィブリン形成を介した腹水卵巣癌細胞の新しいTME形成機序	松岡　歩	附属病院	700,000	○補委	日本学術振興会
バリア効果と抗炎症効果による脂肪由来幹細胞シートの神経周囲癒着予防効果の研究	中村　勇太	附属病院	1,800,000	○補委	日本学術振興会
慢性腎臓病治療による健康寿命延伸効果に関するビッグデータ解析	小倉　央行	附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
前十字靭帯再建術による腱の採取が筋力および動作に影響を与えるか	仙石　拓也	附属病院	2,350,000	○補委	日本学術振興会
XRを活用した前方視的(リアルタイム)食事指導AIアプリ開発と検証	米谷　充弘	附属病院	1,450,000	○補委	日本学術振興会
FLASH放射線治療を想定したゲル線量計ボーラスを用いた線量分布検証法の開発	武村　哲浩	保健学系	1,500,000	○補委	日本学術振興会
子宮内免疫抑制剤曝露児に対するワクチン接種の妥当性評価	藤田　有美	附属病院	1,700,000	○補委	日本学術振興会

複合免疫治療の効果および免疫関連有害事象に関わる末梢血バイオマーカーの開発	丹保　裕一	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
トロンボモジュリン結合障害型異常プロトロンビンによる血栓形成機構の分子学的解析	長屋　聡美	保健学系	1,900,000	○補委	日本学術振興会
統合失調症の作業記憶ネットワークにおけるGABA伝達変化のシナプス後部メカニズム	坪本　真	附属病院	1,700,000	○補委	日本学術振興会
MRIを用いた総合的肝硬度評価法の確立	小野田　農	附属病院	2,600,000	○補委	日本学術振興会
心筋梗塞後抑うつ状態におけるシグマ1受容体定量可視化による心脳連関の解明	森　博史	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
ディープラーニング技術を使用した上腹部CT検査における低線量プロトコルの開発	峰広　香織	附属病院	800,000	○補委	日本学術振興会
MAPキナーゼ経路の制御による全身性エリテマトーデスの新規治療法の開発	宇佐美　雅章	附属病院	1,300,000	○補委	日本学術振興会
非アルコール性脂肪肝炎における局所環境動態に基づく間葉系幹細胞治療の機序解明	関　晃裕	附属病院	1,500,000	○補委	日本学術振興会
シングルセルマルチオミックス解析による肝がん微小環境の解明	村居　和寿	保健学系	1,800,000	○補委	日本学術振興会
薬剤溶出性ステント留置後の内皮化のメカニズムの解明	森　雅之	附属病院	1,800,000	○補委	日本学術振興会
糖尿病性腎症における腸内細菌を介した腎障害機序の可視化	大島　恵	附属病院	1,400,000	○補委	日本学術振興会
COVID-19に関連する急性腎障害におけるD-アミノ酸の意義	宮川　太郎	附属病院	1,800,000	○補委	日本学術振興会

アルドステロン産生副腎過形成の成因となる脂肪組織由来miRNAの探索と機能解析	中野　雄二郎	附属病院	1,200,000	○補委	日本学術振興会
膵癌における三次リンパ様構造(TLS)の役割解明と治療への応用	高田　智司	附属病院	1,600,000	○補委	日本学術振興会
β-catenin / CBP 阻害剤が肝切除後の肝再生に与える影響に関する研究	蒲田　亮介	附属病院	1,800,000	○補委	日本学術振興会
腎細胞癌原発巣中心壊死組織に着目した遠隔癌細胞活性化機構の解明	門本　卓	附属病院	1,900,000	○補委	日本学術振興会
循環腫瘍細胞の免疫寛容獲得機構の解明と新規転移抑制治療法の開発	山本　恵	附属病院	1,700,000	○補委	日本学術振興会
マウス子宮蠕動運動と食事による概日リズム調節に注目した産科婦人科疾患予防法の探索	細野　隆	附属病院	2,000,000	○補委	日本学術振興会
近視性緑内障病態解明のための眼位変化時の視神経乳頭構造および眼血流の解析	宇田川　さち子	附属病院	600,000	○補委	日本学術振興会
進行胃癌に対する抗がん剤選択効率化のための医療経済評価研究	柏　宗伸	薬学系	1,100,000	○補委	日本学術振興会
脈管内がん幹細胞の胚シグナル分子による微小環境形成機構とそれを標的にした治療戦略	藤原　浩	医学系	2,300,000	○補委	日本学術振興会
脳手術と脳科学の変革を狙った機能シフトを担う脳浅層神経ネットワークの解析	中田　光俊	医学系	2,500,000	○補委	日本学術振興会
がん特異的グルタミノリシスを利用したミトコンドリア標的セラノスティクス薬剤の開発	小林　正和	保健学系	1,250,000	○補委	日本学術振興会
PML-RARA融合遺伝子サブタイプが規定する白血病幹細胞性獲得機構の解明	宮本　敏浩	医学系	2,900,000	○補委	日本学術振興会

ゲノム多様性獲得による子宮内膜胚着床環境整備と発癌抑制機構解明に向けた基礎研究	水本　泰成	医学系	1,900,000	○補委	日本学術振興会
術前liquid biopsyを用いたゲノム・RNA発現解析による肺癌術後の個別化医療の探索	木場　隼人	医薬保健学総合研究科	1,100,000	○補委	日本学術振興会
FOXO3活性化による胃がん悪性化機構の解明と臨床効果の検証	辻　敏克	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
経静脈的に全身投与したADSCsの自家神経移植治療における作用機序の解明	本田　宗一郎	附属病院	1,100,000	○補委	日本学術振興会
アミロイドーシスに関する調査研究	小野　賢二郎	医学系	200,000	○補委	厚生労働省
難治性血管炎の医療水準・患者QOL向上に資する研究	和田　隆志	その他部局等	235,000	○補委	厚生労働省
難治性腎障害に関する調査研究	和田　隆志	その他部局等	750,000	○補委	厚生労働省
前眼部難病の標準的診断基準およびガイドライン作成のための調査研究	小林　顕	附属病院	500,000	○補委	厚生労働省
突発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者QOL向上に資する大規模多施設研究	加畑　多文	医学系	100,000	○補委	厚生労働省
強皮症・皮膚繊維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン・疾患レジストリに関する研究	濱口　儒人	医学系	200,000	○補委	厚生労働省
原発性免疫不全症候群の診療ガイドライン改訂、診療提供体制・移行医療体制構築、データベースの確立に関する研究	和田　泰三	医学系	1,000,000	○補委	厚生労働省
自己炎症性疾患とその類縁疾患の全国診療体制整備、移行医療体制の構築、診療ガイドライン確立に関する研究	和田　泰三	医学系	600,000	○補委	厚生労働省

血液凝固異常症等に関する研究	森下　英理子	保健学系	15,385,000	○補委	厚生労働省
特発性心筋症に関する調査研究	藤野　陽	保健学系	300,000	○補委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	出村　諭	附属病院	250,000	○補委	厚生労働省
肝炎総合対策の拡充への新たなアプローチに関する研究	島上　哲朗	保健管理センター	4,000,000	○補委	厚生労働省
新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受験率・陽性者受診率の向上に資する研究	島上　哲朗	保健管理センター	400,000	○補委	厚生労働省
先天異常症候群のライフステージ全体の自然歴と合併症の把握：Reverse phenotypingを包含したアプローチ	渡邉 淳	附属病院	950,000	○補委	厚生労働省
lgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	川野　充弘	附属病院	800,000	○補委	厚生労働省
lgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	高比良　雅之	附属病院	800,000	○補委	厚生労働省
特発性造血障害に関する調査研究	山崎　宏人	附属病院	450,000	○補委	厚生労働省
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	吉川　弘明	保健管理センター	800,000	○補委	厚生労働省
オンライン特定保健指導・オンライン診療におけるPHR活用による行動変容に関する研究	米田　隆	融合科学系	11,538,000	○補委	厚生労働省
ネットワーク社会における地域の特性に応じた肝疾患診療連携体制構築に資する研究	金子　周一	医薬保健学総合研究科	10,731,000	○補委	厚生労働省

指定難病の普及・啓発に向けた包括的研究	和田　隆志	その他部局等	27,750,000	○補 委	厚生労働省
放射線療法の提供体制構築に資する研究	絹谷　清剛	医学系	200,000	○補 委	厚生労働省
小児から成人期発症遺伝性QT延長症候群の突然死予防に関する研究	林　研至	保健学系	100,000	○補 委	厚生労働省
原発性脂質異常症に関する調査研究	多田　隼人	附属病院	5,600,000	○補 委	厚生労働省
自己免疫性出血症治療の「均てん化」のための実態調査と「総合的」診療指針の作成	朝倉　英策	附属病院	500,000	○補 委	厚生労働省
慢性活動性EBV病の疾患レジストリ情報に基づく病型別根治療法の確立	和田　泰三	医学系	150,000	○補 委	厚生労働省
放射線診療の発展に対応する放射線防護の基準策定のための研究	松原　孝祐	保健学系	300,000	○補 委	厚生労働省
全国規模の肝炎ウイルス感染状況の把握及びウイルス性肝炎 elimination に向けた方策の確立に資する疫学研究	島上　哲朗	保健管理センター	1,000,000	○補 委	厚生労働省

計 388,611,764

（注）1　国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入するこ

3　「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

（様式第3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Yamashima T, Seike T, Oikawa S, 他	消化器内科	Hsp70.1 carbonylation induces lysosomal cell death for lifestyle-related diseases	Front Mol Biosci. 2023 Feb; 9:1063632.	Review
2	Shimakami T, Setoyama H, Oza N, 他	消化器内科	Development of performance indicators for hepatitis countermeasures as a tool for the assessment and promotion of liver cancer prevention in Japan	J Gastroentero. 2023 Mar; 58(3):257-267.	Original Article
3	Yamashita T, Terashima T, Yamashita T.	消化器内科	[The locoregional therapy for hepatocellular carcinoma]	Nihon Shokakibyo Gakkai Zasshi. 2023 Jan; 120(1):35-45.	Original Article
4	Miyazawa M, Takatori H, Okafuji H, 他	消化器内科	Efficacy of a novel self-expandable metal stent with dumbbell-shaped flare ends for distal biliary obstruction due to unresectable pancreatic cancer	Sci Rep. 2022 Dec; 12(1):21100.	Original Article
5	Nakagawa H, Takatori H, Hayashi T, 他	消化器内科	Eradication of angiomas by nylon loop snare ligation under total enteroscopy, in disseminated intravascular coagulation associated with blue rubber bleb nevus syndrome	Endoscopy. 2022 Oct; 55(S 01):E137-E138.	Original Article
6	Terashima T, Morizane C, Ushiama M, 他	消化器内科	Germline variants in cancer-predisposing genes in pancreatic cancer patients with a family history of cancer	Jpn J Clin Oncol. 2022 Oct; 52(10):1105-1114.	Others

7	Hayashi T, Okamoto K, Yamashita T.他	消化器内科	Esophago-aortic fstula of esophageal cancer after chemotherapy, proton therapy and salvage photodynamic therapy: a rescued case	Clin J Gastroenterol. 2022 Dec;15(6):1029-1034.	Case report
8	Hayashi T, Okamoto K, Yamada S, 他	消化器内科	Esophago-aortic fistula of esophageal cancer after chemotherapy, proton therapy and salvage photodynamic therapy: a rescued case	Clin J Gastroenterol. 2022 Dec; 15(6):1029-1034.	Case report
9	Yamashita T, Shimakami T, Nio K, 他	消化器内科	Preexisting Humoral Immunity Cross-Reacting with SARS-CoV-2 Might Prevent Death Due to COVID-19 in Critical Patients	J Clin Med. 2022 Jul; 11(13):3870.	Original Article
10	Seike T, Boontem P, Yanagi M, 他	消化器内科	Hydroxynonenal Causes Hepatocyte Death by Disrupting Lysosomal Integrity in Nonalcoholic Steatohepatitis	Cell Mol Gastroenterol Hepatol 2022 Jul; 14(4):925-944.	Original Article
11	Sumiyadorj A, Murai K, Shimakami T, 他	消化器内科	A single hepatitis B virus genome with a reporter allows the entire viral life cycle to be monitored in primary human hepatocytes	Hepatol Commun. 2022 Sep; 6(9):2441-2454.	Original Article
12	Mizukoshi E, Nakagawa H, Tamai T, 他	消化器内科	Peptide vaccine-treated, long-term surviving cancer patients harbor self-renewing tumor-specific CD8(+) T cells	Nat Commun. 2022 Jun; 13(1):3123.	Original Article
13	Terashima T, Higashibeppu Y, Yamashita T, 他	消化器内科	Comparative analysis of medical costs after hepatectomy versus radiofrequency ablation in patients with hepatocellular carcinoma in real-world clinical practice	Hepatol Res. 2022 May; 52(5):471-478.	Original Article

14	Takeshita Y, Tanaka T, Takayama H, et al.	内分泌・代謝内科	Circulating selenoprotein P levels predict glucose-lowering and insulinotropic effects of metformin, but not alogliptin: A post-hoc analysis.	J Diabetes Investig. 2023 Feb; 14(2): 230-235.	Original Article
15	Yujiro Nakano, Masanori Murakami, Kazunari Hara, et al.	内分泌・代謝内科	Long-term effects of primary aldosteronism treatment on patients with primary aldosteronism and chronic kidney disease	Clin Endocrinol (Oxf). 2023 Mar; 98(3): 323-331.	Original Article
16	Daisuke Aono, Mitsuhiro Kometani, Takahiro Asano, et al.	内分泌・代謝内科	A case of adrenocortical carcinoma diagnosed 9 years after the discovery of adrenal incidentaloma	Endocr J. 2022 Dec 28; 69(12): 1415-1421.	Case report
17	Mitsuhiro Kometani, Takashi Yoneda, Shigehiro Karashima, et al.	内分泌・代謝内科	Effect of Intraprocedural Cortisol Measurement on ACTH-stimulated Adrenal Vein Sampling in Primary Aldosteronism	J Endocr Soc. 2022 Jul 26; 6(9): bvac104.	Original Article
18	Takeshita Y, Honda M, Harada K, et al.	内分泌・代謝内科	Comparison of Tofogliflozin and Glimepiride Effects on Nonalcoholic Fatty Liver Disease in Participants With Type 2 Diabetes: A Randomized, 48-Week, Open-Label, Active-Controlled Trial.	Diabetes Care. 2022 Sep 1; 45(9): 2064-2075.	Original Article
19	Chiaki Nomura, Yujiro Nakano, Takeo Tanaka, et al.	内分泌・代謝内科	Somatostatin Receptor-negative and Fluorodeoxyglucose-positron Emission Tomography-positive Lung Neuroendocrine Tumor G1 Exhibiting Cyclic Cushing's Syndrome	Intern Med. 2022 Dec 15; 61(24): 3693-3698.	Case report
20	Takeshita Y, Kita Y, Tanaka T, et al.	内分泌・代謝内科	Insulin-glucagon-like peptide-1 receptor agonist relay and glucagon-like peptide-1 receptor agonist first regimens in individuals with type 2 diabetes: A randomized, open-label trial study.	J Diabetes Investig. 2022 Jun; 13(6): 965-974.	Original Article

21	Takeshi Zoshima, Mitsuhiro Kawano.	リウマチ・膠原病内科	Tongue telangiectasias in systemic sclerosis.	The New England Journal of Medicine 387(8):737, 2022 Aug.	Case report
22	Satoshi Hara, Emi Haneda, Masaki Kawakami 他	リウマチ・膠原病内科	Evaluating tubulointerstitial compartments in renal biopsy specimens using a deep learning-based approach for classifying normal and abnormal tubules.	PLoS One 17(7):e0271161, 2022 Jul.	Original Article
23	Satoshi Hara, Yutaka Yamaguchi, Takeshi Zoshima 他	リウマチ・膠原病内科	Central fibrous area in the glomerular vascular pole consists of fibrous collagens and is associated with advanced age: a cross-sectional study.	BMC Nephrology 23(1):204, 2022 Jun.	Original Article
24	Takeshi Zoshima, Hirofumi Okada, Mitsuhiro Kawano.	リウマチ・膠原病内科	Systemic sarcoidosis with subcutaneous, muscular, cardiac, and lymph node involvement.	Clinical Rheumatology 41(9):2913-2914, 2022 Sep.	Original Article
25	Takeshi Zoshima, Tomohisa Baba, Yamato Tanabe 他	リウマチ・膠原病内科	CCR2- and CCR5-mediated macrophage infiltration contributes to glomerular endocapillary hypercellularity in antibody-induced lupus nephritis.	Rheumatology (Oxford, England) 61(7):3033-3048, 2022 Jul.	Original Article
26	Tada H, Kojima N, Yamagami K, et al.	循環器内科	Impact of Healthy Lifestyle in Patients With Familial Hypercholesterolemia	JACC Asia. 2023 Jan 31;3(1):152-160	Original Article
27	Oto Inoue, Chiaki Goten, Daiki Hashimuko,et al	循環器内科	Single cell transcriptomics identifies adipose tissue CD271+ progenitors for enhanced angiogenesis in limb ischemia	bioRxiv. 2023 Feb 13:2023.02.09.527726. doi: 10.1101/2023.02.09.527726. Preprint.	Original Article

28	Chiaki Goten, Soichiro Usui, Shinichiro Takashima, et al.	循環器内科	Important Role of Endogenous Nerve Growth Factor Receptor in the Pathogenesis of Hypoxia-Induced Pulmonary Hypertension in Mice	Int. J. Mol. Sci. 2023; 24(3): 1868	Original Article
29	Tsuda T, Hayashi K, Kato T, Usuda K, et al	循環器内科	Effect of Catheter Ablation for Atrial Fibrillation in Heart Failure With Mid-Range or Preserved Ejection Fraction - Pooled Analysis of the AF Frontier Ablation Registry and Hokuriku-Plus AF Registry	Circ J. 2023 Jun 23;87(7):939-946. doi: 10.1253/circj.CJ-22-0461. Epub 2022 Dec 2.	Original Article
30	Tada H, Kojima N, Yamagami K	循環器内科	Early diagnosis and treatments in childhood are associated with better prognosis in patients with familial hypercholesterolemia	Am J Prev Cardiol. 2022 Nov 19;12:100434	Original Article
31	Tada H, Kojima N, Yamagami K	循環器内科	Synergistic effect of lipoprotein (a) and C-reactive protein on prognosis of familial hypercholesterolemia	Am J Prev Cardiol. 2022 Nov 11;12:100428	Original Article
32	Tada H, Kojima N, Yamagami K, et al.	循環器内科	Impact of variants of uncertain significance of LDL receptor on phenotypes of familial hypercholesterolemia.	J Clin Lipidol. 2022 Nov-Dec;16(6):863-869	Original Article
33	Tada H, Kojima N, Takamura M, et al	循環器内科	Sitosterolemia	Adv Clin Chem. 2022;110:145-169	Others
34	Tsuda T, Hayashi K, Kato T, Usuda K, et al	循環器内科	Clinical Characteristics, Outcomes, and Risk Factors for Adverse Events in Elderly and Non-Elderly Japanese Patients With Non-Valvular Atrial Fibrillation - Competing Risk Analysis From the Hokuriku-Plus AF Registry.	Circ Rep. 2022 Jun 15;4(7):298-307. doi: 10.1253/circrep.CR-22-0012. eCollection 2022 Jul 8.	Original Article

35	Tada H, Okada H, Nomura A, et al	循環器内科	Children with Severe Hypercholesterolemia Caused by a Pathogenic Mutation in ABCG5	Intern Med. 2023 Jan 15;62(2):251-259	Case report
36	Tada H, Kojima N, Yamagami K, et al.	循環器内科	Effects of Different Types of Pathogenic Variants on Phenotypes of Familial Hypercholesterolemia	Front Genet. 2022 Apr 11;13:872056	Original Article
37	Tada H, Kojima N, Yamagami K, et al.	循環器内科	Clinical and genetic features of sitosterolemia in Japan	Clin Chim Acta. 2022 May 1;530:39-44	Original Article
38	Tada H, Kurashina T, Ogura M, et al	循環器内科	Prospective Registry Study of Primary Dyslipidemia (PROLIPID): Rationale and Study Design	J Atheroscler Thromb. 2022 Jun 1;29(6):953-969	Others
39	Tada H, Hori M, Matsuki K, et al	循環器内科	Achilles Tendon Thickness Assessed by X-ray Predicting a Pathogenic Mutation in Familial Hypercholesterolemia Gene	J Atheroscler Thromb. 2022 Jun 1;29(6):816-824	Original Article
40	Iwata Y, Nakade Y, Kinoshita M,et al	腎臓内科	Intra-Brain and Plasma Levels of L-Serine Are Associated with Cognitive Status in Patients with Chronic Kidney Disease	Kidney Dis (Basel)2023 Jan;9(2):118-129	Original Article
41	Hara A, Sada KE, Wada T, et al.	腎臓内科	Predictors of damage accrual in patients with antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: A nationwide prospective study	Mod Rheumatol. 2023 Mar 17;road029.	Original Article

42	Oshima M, Iwata Y, Toyama T,et al	腎臓内科	Sex differences in risk factors for end-stage kidney disease and death in type 2 diabetes: A retrospective cohort study.	J Diabetes. 2023 Feb;15(3):246-254	Original Article
43	Koshino A, Oshima M, Arnott C,et al	腎臓内科	Effects of canagliflozin on liver steatosis and fibrosis markers in patients with type 2 diabetes and chronic kidney disease: a post-hoc analysis of the CREDENCE trial	Diabetes Obes Metab.2023 Feb;25(5):1413-1418	Original Article
44	Nakade Y, Iwata Y, Sakai N,et al	腎臓内科	Increased levels of oral Streptococcus-derived D-alanine in patients with chronic kidney disease and diabetes mellitus.	Sci Rep.2022 Dec;12(1):21773.	Original Article
45	Hara A, Wada T, Muso E,et al	腎臓内科	Effect of Low-Density Lipoprotein Apheresis on Quality of Life in Patients with Diabetes, Proteinuria, and Hypercholesterolemia	Blood Purif.2022 Dec;52(4):373-381	Original Article
46	Yamamura Y, Iwata Y, Furuichi K,et al	腎臓内科	Kif26b contributes to the progression of interstitial fibrosis via migration and myofibroblast differentiation in renal fibroblast	FASEB J. 2022 Nov;36(11):e22606.	Original Article
47	Mochida Y, Hara A, Oka M, et al.	腎臓内科	Association between Anti-Erythropoietin Receptor Antibodies and Cardiac Function in Patients on Hemodialysis: A Multicenter Cross-Sectional Study	Biomedicines. 2022 Aug 26;10(9):2092	Original Article
48	Koshino A, Schechter M, Sen T, et al.	腎臓内科	Interleukin-6 and Cardiovascular and Kidney Outcomes in Patients With Type 2 Diabetes: New Insights From CANVAS	Diabetes Care. 2022 Nov 1;45(11):2644-2652.	Original Article

49	Watanabe R*, Oshima M*, Nishioka N*, et al. (equally contributed)	腎臓内科	Systematic review and meta-analysis for 2023 clinical practice guidelines of the Japan research committee of the ministry of health, labour, and welfare for intractable vasculitis for the management of ANCA-associated vasculitis	Mod Rheumatol. 2022 Sep 16;roac114.	Original Article
50	Koshino A, Takaeda C, Matsuno T,et al.	腎臓内科	Membranous Nephropathy-Like Apolipoprotein E Deposition Disease with Apolipoprotein E Toyonaka and Homozygous Apolipoprotein E2/2 without Dyslipidemia, with Characteristic Electron-Dense Deposits	Case Rep Nephrol Dial,2022.June;10;12(2):96-104	Case report
51	Wada T, Mori-Anai K, Takahashi A,et al.	腎臓内科	Effect of canagliflozin on the decline of estimated glomerular filtration rate in chronic kidney disease patients with type 2 diabetes mellitus: A multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled, parallel-group, phase 3 study in Japan	J Diabetes Investig,2022.August;13(12):1981-1989	Original Article
52	Sako K, Furuichi K, Makiishi S,et al.	腎臓内科	Cyclin-dependent kinase 4-related tubular epithelial cell proliferation is regulated by Paired box gene 2 in kidney ischemia-reperfusion injury.	Kidney Int,2022.April;102(1):45-57	Original Article
53	Iwata Y, Nakade Y, Kitajima S,et al.	腎臓内科	Protective Effect of D-Alanine Against Acute Kidney Injury.	Am J Physiol Renal Physiol,2022.4April,322(6):F667-F679.	Original Article
54	Linh HT, Iwata Y, Senda Y, et al.	腎臓内科	Intestinal Bacterial Translocation Contributes to Diabetic Kidney Disease	J Am Soc Nephrol. 2022 Jun;33(6):1105-1119.	Original Article
55	Yamamura Y, Furuichi K, Toyama T,et al.	腎臓内科	Repeated Necrotizing Lymphadenitis with MEFV Gene Mutations.	Intern Med,2022,April;61(7):1105-1110	Case report

56	Shinji Kitajima, Megumi Osima, Hisayuki Ogura,et al	腎臓内科	Long-term prognosis of focal segmental glomerulosclerosis treated with therapeutic low-density lipoprotein-apheresis in patients with severe kidney dysfunction and proteinuria	Rheumatology and Autoimmunity, 2023, 3(1), pp. 35-42	Original Article
57	Ryo Nishioka, Shohei Yoshida, Hiroyuki Takamatsu 他	総合診療科	Cardiac light-chain deposition disease and hints at diagnosing: a case report.	European Heart Journal Case Report 30;7(2):ytad049, . 2023 Jan.	Case report
58	Nozaki I, Hashiguchi A, Takashima H 他	脳神経内科	Charcot-Marie-Tooth Disease with A Novel Variant in Gap Junction Protein Beta 1 Presenting with Visual Field Defects.	Intern Med. 2023 Feb; Online ahead of print.	Case report
59	Noguchi-Shinohara M, Hamaguchi T, Sakai K 他	脳神経内科	Effects of Melissa officinalis extract containing rosmarinic acid on cognition in older adults without dementia: a randomized controlled trial.	J Alzheimers Dis. 2023 Jan; 91: 805-814	Original Article
60	Noguchi-Shinohara M, Ono K, Yuki-Nozaki S 他	脳神経内科	Association of the prefrailty with global brain atrophy and white matter lesions among cognitively unimpaired older adults: the Nakajima study.	Sci Rep. 2022 Aug; 12: 12129	Original Article
61	Sakashita Y, Nozaki I, Hamaguchi T 他	脳神経内科	A case of autoimmune glial fibrillary acidic protein astrocytopathy presenting with magnetic resonance imaging mimics of multiple sclerosis.	Clin Neurol Neurosurg. 2022 Jul; 218:107272	Case report
62	Hikishima S, Sakai K, Akagi A 他	脳神経内科	Deterioration after liver transplantation and transthyretin stabilizer administration in a patient with ATTRv amyloidosis with Leu58Arg (p.Leu78Arg) TTR variant.	Intern Med. 2022 Aug; 61: 2347-2351	Case report

63	Mori M, Sakai K, Saito K 他	脳神経内科	Hypertrophic Pachymeningitis with Characteristics of Both IgG4-related Disorders and Granulomatosis with Polyangiitis.	Intern Med. 2022 Jun; 61: 1903-1906	Case report
64	Makoto Tsubomoto, Shogo Miyashita, Mitsuru Kikuchi	神経科精神科	Phantom eye syndrome after bilateral self-enucleation in a patient with schizophrenia.	Psychiatry and clinical neurosciences 76(8):405-406 2022 Jun 13	Original Article
65	Naito N, Hirosawa T, Tsubomoto M 他	神経科精神科	Prominent gamma band activity during visual motion perception in early-stage Alzheimer's disease.	PLoS One 17(4):e0266693 2022 Apr 18	Original Article
66	Masuhiko Sano,Tetsu Hirosawa Mitsuru Kikuchi 他	神経科精神科	Relation between acquisition of lexical concept and joint attention in children with autism spectrum disorder without severe intellectual disability	PLOS ONE 2022 Apr 14;17(4):e0266953.	Original Article
67	Yokoyama T, Sakumura N, Inoue N 他	小児科	IgA Vasculitis in Japanese Patients Harboring MEFV Mutations: A Case Report and Review of the Literature.	Cureus. 2023; 15: e34876.	Case report
68	Noguchi K, Ikawa Y, Takenaka M 他	小児科	Acquired L1196M ALK mutation in anaplastic lymphoma kinase-positive anaplastic large cell lymphoma during alectinib administration.	EJHaem. 2023; 4: 305-308. doi: 10.1002/jha2.646.	Case report
69	Noguchi K, Ikawa Y, Takenaka M 他	小児科	Protocol for a high titer of BaEV-Rless pseudotyped lentiviral vector: Focus on syncytium formation and detachment.	J Virol Methods. 2023; 314: 114689.	Original Article

70	Fujiki T, Sakai Y, Ikawa Y 他	小児科	Pediatric inflammatory myofibroblastic tumor of the bladder with ALK-FN1 fusion successfully treated by alectinib.	Pediatr Blood Cancer. 2023; 70: e30172.	Case report
71	Noguchi K, Ikawa Y, Takenaka M 他	小児科	Presence of identical B-cell clone in both cerebrospinal fluid and tumor tissue in a patient with opsoclonus-myoclonus syndrome associated with neuroblastoma.	Pediatr Hematol Oncol.	Original Article
72	Usami M, Ikawa Y, Sakai Y 他	小児科	Refractory gastroduodenal ulcers: A rare complication with Bloom syndrome.	Clin Case Rep. 2022; 10: 10.1002/ccr3.6141.	Case report
73	Miyazawa H, Wada T.	小児科	Immune-mediated inflammatory diseases with chronic excess of serum interleukin-18.	Front Immunol. 2022; 13: 930141.	Review
74	Yachie A.	小児科	Clinical perspectives and therapeutic strategies: pediatric autoinflammatory disease-a multi-faceted approach to fever of unknown origin of childhood.	Inflamm Regen. 2022; 42: 21.	Review
75	Fujiki T, Nishimura R, Araki R 他	小児科	A subarachnoid pleural fistula with massive crystal-clear pleural fluid caused by a lumbar epidural teratoma.	Paediatr Int Child Health. 2022; 42:52-57.	Case report
76	Kuroda R, Wakabayashi H, Araki R 他	小児科	Phase I/II clinical trial of high-dose [131I] meta-iodobenzylguanidine therapy for high-risk neuroblastoma preceding single myeloablative chemotherapy and haematopoietic stem cell transplantation.	Eur J Nucl Med Mol Imaging	Original Article

77	Miu Mizuhata, Shigeyuki Takamatsu, Satoshi Shibata 他	放射線科	Patterns of failure in glioblastoma multiforme following Standard (60 Gy) or Short course (40 Gy) radiation and concurrent temozolomide.	Japanese Journal of Radiology, Published: 17 January 2023, volume 41, pages660-668 (2023)	Original Article
78	Kotaro Yoshida, Atsushi Takamatsu, Takahiro Nohara, et al.	放射線科	Renal artery-based kidney segmentation on CT for patients with renal cell carcinoma: Feasibility of segmental artery clamping simulation	Eur J Radiol Open 10:100463, 2022 Dec	Original Article
79	Bou S, Takamatsu S, Matsumoto S, et al.	放射線科	Long-Term Results of Proton Therapy for Hepatocellular Carcinoma Using Four-Dimensional Computed Tomography Planning without Fiducial Markers.	Cancers (Basel). 2022 Nov;14(23):5842.	Original Article
80	Toshima F, Yoneda N, Terada K 他	放射線科	DECT Numbers in Upper Abdominal Organs for Differential Diagnosis: A Feasibility Study.	Tomography 4;8(6):2698-2708, 2022 Nov	Original Article
81	Kitao A, Matsui O, Zhang Y, et al.	放射線科	Dynamic CT and Gadoxetic Acid-enhanced MRI Characteristics of P53-mutated Hepatocellular Carcinoma.	Radiology. 2023 Feb;306(2):e220531.	Original Article
82	Takamatsu A, Yoshida K, Toshima F, et al.	放射線科	Single-Center Analysis of Pegfilgrastim-induced Aortitis Using a Drug Prescription Database and CT Findings.	Radiology. 2022 Dec;305(3):729-740.	Original Article
83	Zulfiqar M, Chatterjee D, Yoneda N 他	放射線科	Imaging Features of Premalignant Biliary Lesions and Predisposing Conditions with Pathologic Correlation.	Radiographics 42(5):1320-1337, 2022 Sep-Oct	Review

84	Terada K, Kawashima H, Yoneda N 他	放射線科	Predicting axillary lymph node metastasis in breast cancer using the similarity of quantitative dual-energy CT parameters between the primary lesion and axillary lymph node.	Jpn J Radiol 40(12):1272-1281, 2022 Dec	Original Article
85	Kotaro Yoshida, Hiroko Kawashima, Kannon Takayuki, et al.	放射線科	Prediction of pathological complete response to neoadjuvant chemotherapy in breast cancer using radiomics of pretreatment dynamic contrast-enhanced MRI	Magn Reson Imaging 92:19-25, 2022 Oct	Original Article
86	Tanimura I, Yoneda N, Kitao A 他	放射線科	A case of intrahepatic cholangiocarcinoma arising from a simple hepatic cyst via dysplasia and carcinomatous transformation.	Abdom Radiol (NY) 47(6):1954-1960, 2022 Jun	Case report
87	Sakurai T, Takamatsu S, Shimoyachi N, et al.	放射線科	Prediction of post-radiotherapy survival for bone metastases: a comparison of the 3-variable number of risk factors model with the new Katagiri scoring system.	J Radiat Res. 2022 Mar;63(2):303-311.	Original Article
88	Komori T, Inoue D, Izumozaki A, et al.	放射線科	Ultrasonography of IgG4-related dacryoadenitis and sialadenitis: Imaging features and clinical usefulness.	Mod Rheumatol. 2022 Aug 20;32(5):986-993.	Original Article
89	Okuda M, Kobayashi S, Toyooka K, et al.	放射線科	Quantitative differentiation of tendon and ligament using magnetic resonance imaging ultrashort echo time T2* mapping of normal knee joint	Acta Radiol. 2022 Nov;63(11):1489-1496. doi: 10.1177/02841851211043834. Epub 2021 Sep 24.	Original Article
90	Irisu Nakabori, Yasuhito Hamaguchi, Kaori Sawada 他	皮膚科	Fc γ RIIB inhibits inflammation in a murine model of psoriasis	J Dermatol Sci. 2023 Mar: 108: 87-97	Original Article

91	Motoki Horii, Natsumi Fushida, Tomoyuki Ikeda 他	皮膚科	Cytokine-producing B-cell balance associates with skin fibrosis in patients with systemic sclerosis	J Dermatol. 2022 Oct: 49: 1012-1019	Original Article
92	Kie Mizumaki, Satoshi Makino, Yuka Ikawa 他	皮膚科	Case of pembrolizumab-induced dermatomyositis with anti-transcription intermediary factor 1-γ antibody	J Dermatol. 2022 Sep: 49: e311-e312	Case report
93	Yasuhito Hamaguchi	皮膚科	Drug-induced scleroderma-like lesion	Allergol Int. 2022 Apr: 71: 163-168	Review
94	Iino K, Yamamoto Y, Ueda H, Takemura H.	心臓血管外科	Spontaneous left atrial dissection due to mitral regurgitation.	JTCVS Tech. 2022 Dec 12;17:76-78	Case report
95	Iino K, Takago S, Saito N, 他	心臓血管外科	Total arch replacement and frozen elephant trunk for acute type A aortic dissection.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2022 Nov;164(5):1400-1409	Case report
96	Shuhei Yoshida, Isao Matsumoto, Daisuke Saito 他	呼吸器外科	Partial Tracheal Defects Closure using Glutaraldehyde-Treated Autologous Pericardium	Thoracic and Cardiovascular Surgeon 2022 Oct (オンライン)	Original Article
97	Sakai A, Kinoshita J, Inaki N.他	消化管外科	Robot-assisted distal gastrectomy for duodenal gastrointestinal stromal tumors adhering to the pancreas: a case report	J Surg Case Rep. 2023 Feb 6;2023(2):rjad024.	Case report

98	Tsuji T, Okamoto K, Inaki N.他	消化管外科	Successful closure of refractory esophago-pulmonary fistula after esophagectomy using a vascular embolization plug under endoscopy: A case report	Asian J Endosc Surg. 2023 Jan;16(1):123-126.	Case report
99	Kinoshita J, Yagi S , Inaki N 他	消化管外科	Prognostic value of tumor-infiltrating CD163+ macrophage in patients with metastatic gastric cancer undergoing multidisciplinary treatment	BMC Cancer. 2022 Jun 3;22(1):608.	Original Article
100	Okamoto K, Ninomiya I, Inaki N 他	消化管外科	Usefulness of Prophylactic Administration of Pegfilgrastim for Esophageal Cancer Chemotherapy: A Single-center Retrospective Study	Anticancer Res. 2022 May;42(5):2783-2790.	Original Article
101	Nakamura Y, Kinoshita J, Fushida S 他	消化管外科	Crosstalk between cancer-associated fibroblasts and immune cells in peritoneal metastasis: inhibition in the migration of M2 macrophages and mast cells by Tranilast	Gastric Cancer. 2022 May;25(3):515-526.	Original Article
102	Takei R, Miyashita T, Yamamoto Y.他	消化管外科	Correction to: Dynamic switch of immunity and antitumor effects of metformin in rat spontaneous esophageal carcinogenesis.	Cancer Immunol Immunother. 2022 Apr;71(4):791-793.	Original Article
103	Okazaki M, Katano K, Yagi S.他	肝胆膵・移植外科	Early progression of a pancreatic metastasis of synovial sarcoma after pancreatectomy	Surg Case Rep. 2023 Feb 27;9(1):30.	Original Article
104	Sakai A, Takada S, Yagi S 他	肝胆膵・移植外科	Pancreatic Acinar Cell Carcinoma Projected From the Ampulla of Vater With Extensive Intraductal Tumor Growth	Am J Gastroenterol. 2023 Feb 1;118(2):198.	Case report

105	Yamazaki H , Tajima H , Ohta T 他	肝胆膵・移植外科	Thrombopoietin accumulation in hepatocytes induces a decrease in its serum levels in a sinusoidal obstruction syndrome model	Mol Med Rep. 2022 Jun;25(6):201.	Original Article
106	Ooe Y, Terakawa H, Inaki N.他	乳腺外科	Bilateral primary angiosarcoma of the breast: a case report.	J Med Case Rep. 2023 Feb 21;17(1):60.	Review
107	Miwa S, Yamamoto N, Tsuchiya H	整形外科	Sarcoma: Molecular Pathology, Diagnostics, and Therapeutics.	Int J Mol Sci 24: 5833, 2023	Original Article
108	Yamada Y, Yokogawa N, Kato S,他	整形外科	Effects of Dementia on Outcomes after Cervical Spine Injuries in Elderly Patients: Evaluation of 1512 Cases in a Nationwide Multicenter Study in Japan	J Clin Med 12: 1867, 2023	Original Article
109	Yamamuro Y, Kabata T, Nojima T, 他	整形外科	Combined adipose-derived mesenchymal stem cell and antibiotic therapy can effectively treat periprosthetic joint infection in rats	Sci Rep 13: 3949, 2023	Original Article
110	Yamada Y, Toribatake Y, Okamoto S,他	整形外科	Recompression of Augmented Vertebrae after Balloon Kyphoplasty is a Risk of Adjacent Vertebral Fracture	Spine Surg Relat Res 7: 89-95, 2022	Original Article
111	Kobayashi M, Yokogawa N, Kato S, 他	整形外科	Risk Factors for Early Mortality in Older Patients with Traumatic Cervical Spine Injuries-A Multicenter Retrospective Study of 1512 Cases.	J Clin Med 12: 708, 2023	Original Article

112	Demura S, Ohara T. Tauchi R.他	整形外科	Incidence and causes of instrument-related complications following primary definitive fusion for pediatric spine deformity.	J Neurosurg Spine . 2022 Sep 30;38(2):192-198.	Original Article
113	Inoue D. Kabata T. Kajino Y.他	整形外科	Risk factor analysis on perioperative greater trochanteric fracture of total hip arthroplasty via anterolateral approach.	Arch Orthop Trauma Surg 2023 Jul;143(7):4519-4525.	Original Article
114	Morinaga S. YamamotoN. Hayashi K.他	整形外科	Insufficiency fracture of the supra-acetabulum that required differentiation from a pathological fracture secondary to a malignant bone tumor: a case report.	J Med Case Rep 2022 Nov 16;16(1):436.	Original Article
115	Asano Y. Yamamoto N.Hayashi K.他	整形外科	Case report: Complete remission of bone metastasis from renal cell carcinoma in histopathological examination after treatment with immune checkpoint inhibitors	Front Immunol 2022 Sep 27;13:980456.	Original Article
116	Takeuchi A, Endo M, Kawai A, 他	整形外科	Randomized placebo-controlled double-blind phase II study of zaltoprofen for patients with diffuse-type and unresectable localized tenosynovial giant cell tumors: The REALIZE study.	Front Oncol. 12: 900010-, 2022	Original Article
117	Yokogawa N, Kato S, Sasagawa T,他	整形外科	Differences in clinical characteristics of cervical spine injuries in older adults by external causes: a multicenter study of 1512 cases	Sci Rep. 2022 Sep 23;12(1):15867.	Original Article
118	Miwa S.Yamamoto N. HayashiK.他	整形外科	Surgical Site Infection after Bone Tumor Surgery: Risk Factors and New Preventive Techniques	Cancers 14 4527	Review

119	Nagatani S. Demura S. Kato S.他	整形外科	Risk Factors for Progressive Spinal Sagittal Imbalance in the Short-Term Course after Total Hip Arthroplasty: A 3 Year Follow-Up Study of Female Patients.	J Clin Med 2022 Sep 1;11(17):5179.	Original Article
120	Demura S, Hinoi E, Kawakami N, 他	整形外科	The L-type amino acid transporter LAT1 expression in patients with scoliosis.	Spine Surg Relat Res. 2021 Dec 27;6(4):402-407.	Original Article
121	Asano Y. Yamamoto N.Hayashi K.他	整形外科	Clinical Outcomes of Limb-sparing Tumor Surgery With Vascular Reconstruction for Bone and Soft-tissue Tumors	Anticancer Res 2022 Sep;42(9):4619-4626.	Original Article
122	Demura S. Kato S. Shinmura K.他	整形外科	The influence of costal resection on pulmonary function after total en bloc spondylectomy for spine tumor.	J Orthop Sci . 2022 Aug 26;S0949-2658(22)00228-7.	Original Article
123	Kato S.Demura S. Shinmura K.他	整形外科	Associations between Abdominal Trunk Muscle Weakness and Future Osteoporotic Vertebral Fracture in Middle-Aged and Older Adult Women: A Three-Year Prospective Longitudinal Cohort Study.	J Clin Med 2022 Aug 19;11(16):4868.	Original Article
124	YamadaY. Demura S. Kato S.他	整形外科	Anatomical Characteristics and Variations of Thoracic Segmental Arteries With 3-Dimensional CT Analysis	Spine (Phila Pa 1976) 2022 Nov 15;47(22):E617-E624.	Original Article
125	Kato S.Demura S. Kabata T.他	整形外科	Risk Factors that Hinder Locomotive Syndrome Improvement Following Surgery for Musculoskeletal Diseases in Older Patients: A Multicenter Prospective Study.	Mod Rheumatol 2023 Jul 4;33(4):836-842.	Original Article

126	Yoshimizu R, Nakase J, Okuda M, 他	整形外科	Ligamentization of the reconstructed ACL differs between the intraarticular and intraosseous regions: A quantitative assessment using UTE-T2* mapping	PLoS One . 2022 Jul 22;17(7):e0271935.	Original Article
127	NakaseJ. Yoshimizu R.KimuraM.他	整形外科	Anatomical description and short-term follow up clinical results for ultrasound-guided injection of medial collateral ligament bursa: New conservative treatment option for symptomatic degenerative medial meniscus tear	Knee 2022 Oct;38:1-8.	Original Article
128	Tada K. Matsuta M. Akahane M.他	整形外科	Common Peroneal Nerve Rupture with Multiple Ligament Knee Injury: A case report	Clin Case Rep. 2022 Jul 11;10(7):e6023.	Original Article
129	Yoshimizu R, Nakase J, Yoshioka K,他	整形外科	Incidence and temporal changes in lumbar degeneration and low back pain in child and adolescent weightlifters: A prospective 5-year cohort study	PLoS One. 2022 Jun 29;17(6):e0270046.	Original Article
130	Yamamuro Y. Kabata T.Takeuchi A..他	整形外科	Large intraosseous chronic expanding hematoma after total hip arthroplasty presenting with chronic disseminated intravascular coagulation: a case report and literature review.	BMC Musculoskelet Disord 2022 Jun 24;23(1):609.	Original Article
131	Hirotaka Yonezawa,Norio Yamamoto,Katuhiro Hayashi 他	整形外科	Dedifferentiated chondrosarcoma of the middle finger arising from a solitary enchondroma	World J Clin Cases.2022 Apr 6;10(10):3297-3305	Case report
132	Morinaga S. Takeuchi A. Yamamoto N.他	整形外科	Compartment-specific Clinical Outcomes in Patients With Soft Tissue Sarcomas of the Thigh.	AnticancerRes . 2022 Jun;42(6):3143-3150.	Original Article

133	Kanayama T. Nakase J.Asai K.他	整形外科	Suture Bridge Fixation for Posterior Cruciate Ligament Tibial Avulsion Fracture in Children.	Arthrosc Tech. 2022 Mar 19;11(4):e609-e613.	Original Article
134	Kanayama T. Nakase J.Mochizuki T.他	整形外科	Evaluation of skeletal muscle activity during foot training exercises using positron emission tomography.	Sci Rep. 2022 Apr 30;12(1):7076.	Original Article
135	Nagatani S. Ohya J. Yasukawa T.他	整形外科	Occipital Erosion as a Late Complication Following Atlantoaxial Fixation: A Case Report	Spine Surg Relat Res. 2021 Jun 11;6(2):181-184.	Original Article
136	Kobayashi M. Demura S. Kato S.他	整形外科	Prevalence and Risk Factors for the Development of Venous Thromboembolism After Spinal Tumor Surgery	World Neurosurg. 2022 Aug;164:e177-e182.	Original Article
137	Tada K, Matsuta M, Murai A,他	整形外科	Profunda femoris artery perforator flap for lateral knee joint reconstruction: A report of two cases. JPRAS Open. 2022.	JPRAS Open . 2022 Mar 7;32:144-149. doi: 10.1016/j.jpra.2022.02.003.	Original Article
138	Asano Y, Yamamoto N, Demura S,他	整形外科	The Therapeutic Effect and Clinical Outcome of Immune Checkpoint Inhibitors on Bone Metastasis in Advanced Non-Small-Cell Lung Cancer	Front Oncol 12: 871675-, 2022	Original Article
139	Tada K, Murai A, Nakamura Y, 他	整形外科	In carpal tunnel syndrome, sensory nerve conduction velocities are worst in the middle finger than in the index finger. Front Neurol.	ront Neurol . 2022 Mar 11;13:851108. doi: 10.3389/fneur.2022.851108. eCollection 2022.	Original Article

140	Yamamoto N, Araki Y, Tsuchiya H	整形外科	Joint-preservation surgery for bone sarcoma in adolescents and young adults.	Int J Clin Oncol 28: 12-27, 2023	Original Article
141	Nakamura Y. Tada K. Murai A.他	整形外科	Iatrogenic sciatic nerve injury due to cerclage wiring for proximal periprosthetic femoral fracture: A rare case report	JPRAS Open 2022 Feb 16;32:54-60.	Original Article
142	Tada K, Murai A, Nakamura Y, 他	整形外科	Deep inferior epigastric artery as a collateral pathway to the lower extremities:	A case report. JPRAS Open . 2022 Jan 23;32:13-17. doi: 10.1016/j.jpra.2022.01.003. eCollection 2022 Jun.	Original Article
143	Hayashi K. Tsuchiya H.	整形外科	The role of surgery in the treatment of metastatic bone tumor	Int J Clin Oncol. 2022 Aug;27(8):1238-1246.	Original Article
144	Makoto Handa, Satoshi Kato, Goro Sakurai, et al.	整形外科	The prevalence of locomotive syndrome and its associated factors in patients with Type 2 diabetes mellitus	Mod Rheumatol. 2023 Mar 2; 33(2): 422-427.	Case report
145	Handa M, Kato S, Sakurai G, 他	整形外科	The prevalence of locomotive syndrome and its associated factors in patients with Type 2 diabetes mellitus.	Mod Rheumatol 33: 422-427, 2023	Original Article
146	Inoue D. Kabata T. Kajino Y.他	整形外科	Does dosage or duration of concurrent oral corticosteroid influence elevated risk of postoperative complications after total toint arthroplasty?	J Arthroplasty. 2022 Apr;37(4):652-658.	Original Article

147	Kato S.Demura S. Kabata T.他	整形外科	Evaluation of locomotive syndrome in patients receiving surgical treatment for degenerative musculoskeletal diseases: A multicentre prospective study	Mod Rheumatol 2022 Jul 1;32(4):822-829.	Original Article
148	Hayashi K. Fang X. Ueda H.他	整形外科	Bone Regeneration Using Autologous Adipose-Derived Stem Cell Spheroid Complex	Journal of Biomaterials and Tissue Engineering, Volume 12, Number 6, June 2022, pp. 1216-1223(8)	Original Article
149	Kadono Y.	泌尿器科	Editorial Comment to Predictive factors of de novo overactive bladder in clinically localized prostate cancer patients after robot-assisted radical prostatectomy	Int J Urol. 2023 Jan;30(1):62. doi: 10.1111/iju.15074. Epub 2022 Dec 14.	Others
150	Kawaguchi S, Izumi K, Naito R, 他	泌尿器科	Comparison of Clinical Outcomes between Robot-Assisted Partial Nephrectomy and Cryoablation in Elderly Patients with Renal Cancer	Cancers (Basel). 2022 Nov 26;14(23):5843. doi: 10.3390/cancers14235843.	Original Article
151	Nakagawa R, Izumi K, Naito R, 他	泌尿器科	Does Bladder Cancer with Inchworm Sign Indicate Better Prognosis after TURBT?	Cancers (Basel). 2022 Nov 23;14(23):5767. doi: 10.3390/cancers14235767.	Original Article
152	Kano H, Izumi K, Hiratsuka K, 他	泌尿器科	Suppression of androgen receptor signaling induces prostate cancer migration via activation of the CCL20-CCR6 axis	Cancer Sci. 2023 Apr;114(4):1479-1490. doi: 10.1111/cas.15683. Epub 2022 Dec 18.	Original Article
153	Hiroaki Iwamoto , Kouji Izumi , Atsushi Mizokami	泌尿器科	Editorial Comment to Omitting routine cystography after RARP: Analysis of complications and readmission rates in suprapubic and transurethral drained patients	Int J Urol . 2023 Feb;30(2):218-219. doi: 10.1111/iju.15116. Epub 2022 Nov 30.	Others

154	Iwamoto H, Izumi K, Nakagawa R, 他	泌尿器科	Serum CCL2 Is a Prognostic Biomarker for Non-Metastatic Castration-Sensitive Prostate Cancer	Biomedicines. 2022 Sep 22;10(10):2369. doi: 10.3390/biomedicines10102369.	Original Article
155	Nakagawa R, Iwamoto H, Makino T, 他	泌尿器科	Development of a Prognostic Model of Overall Survival for Metastatic Hormone-Naïve Prostate Cancer in Japanese Men	Cancers (Basel). 2022 Oct 2;14(19):4822. doi: 10.3390/cancers14194822.	Original Article
156	Shigehara K, Kato Y, Konaka H, 他	泌尿器科	The correlation between erectile function and adiponectin levels in men with late-onset hypogonadism	Aging Male. 2022 Dec;25(1):249-254. doi: 10.1080/13685538.2022.2119955.	Original Article
157	Tsukasa Yoshida,Hiroshi Yaegashi,Ren Toriumi 他	泌尿器科	Long response duration to pembrolizumab in metastatic,castration-resistant prostate cancer with microsatellite instability-high and neuroendocrine differentiation	Front Oncol.2022 Sep 16;12:912490	Case report
158	Kadono Y.	泌尿器科	Editorial Comment from Dr Kadonoo to Minimal residual membranous urethral length and membranous urethral length predict poor recovery from incontinence after robot-assisted radical prostatectomy and after open radical prostatectomy	Int J Urol. 2022 Dec;29(12):1524-1525. doi: 10.1111/iju.15050. Epub 2022 Sep 14.	Others
159	Nakagawa R, Iwamoto H, Makino T, 他	泌尿器科	Squamous or Glandular Differentiation Predicts Poor Prognosis in pT1 Urothelial Carcinoma	In Vivo. 2022 Sep-Oct;36(5):2365-2370. doi: 10.21873/invivo.12968.	Original Article
160	Nakagawa R, Nohara T, Kadomoto S, 他	泌尿器科	Carbon dioxide gas embolism during robot-assisted laparoscopic partial nephrectomy	IJU Case Rep. 2022 Jun 14;5(5):334-337. doi: 10.1002/iju5.12472. eCollection 2022 Sep.	Case report

161	Nakagawa T, Shigehara K, Kato Y, 他	泌尿器科	Are bladder washing samples suitable for investigation of HPV infection in urinary bladder? Comparison in HPV prevalence between urine and washing samples	J Med Virol. 2023 Jan;95(1):e28110. doi: 10.1002/jmv.28110. Epub 2022 Sep 10.	Original Article
162	Toriumi R, Yaegashi H, Kadomoto S, 他	泌尿器科	Decreased febrile neutropenia during inpatient chemotherapy for urologic cancer during coronavirus disease 2019 pandemic	Cancer Sci. 2023 Jan;114(1):201-210. doi: 10.1111/cas.15490. Epub 2022 Nov 14.	Original Article
163	Izumi K, Shima T, Mita K, 他	泌尿器科	Enzalutamide Versus Abiraterone plus Prednisolone Before Chemotherapy for Castration-resistant Prostate Cancer: A Multicenter Randomized Controlled Trial	Eur Urol Open Sci. 2022 May 19;41:16-23. doi: 10.1016/j.euros.2022.04.016. eCollection 2022 Jul.	Original Article
164	Kadono Y, Nohara T, Kawaguchi S,他	泌尿器科	Impact of Pelvic Anatomical Changes Caused by Radical Prostatectomy	Cancers (Basel). 2022 Jun 21;14(13):3050. doi: 10.3390/cancers14133050.	Original Article
165	Toriumi R, Yaegashi H, Sakurai T, 他	泌尿器科	Ischemic proctitis after low-dose-rate brachytherapy using hydrogel spacer for prostate cancer	IJU Case Rep. 2022 Apr 12;5(4):237-240. doi: 10.1002/iju5.12444. eCollection 2022 Jul.	Case report
166	Iwamoto H, Izumi K, Nakagawa R, 他	泌尿器科	Usefulness of serum CCL2 as prognostic biomarker in prostate cancer: a long-term follow-up study	Jpn J Clin Oncol. 2022 Nov 3;52(11):1337-1344. doi: 10.1093/jjco/hyac102.	Original Article
167	Nohara T	泌尿器科	Editorial Comment to Late recurrence in patients with non-muscle-invasive bladder cancer after 5-year cancer-free periods.	Int J Urol (IF: 3.37; Q2). 2022 Oct;29(10):1146. doi: 10.1111/iju.14967. Epub 2022 Jun 19.	Others

168	Kamijima T, Yaegashi H, Mizokami A, 他	泌尿器科	Efficacy of Androgen Receptor-targeted Drugs After Prostate Cancer Recurrence With Bone Metastases: PROSTAT-BSI Sub-analysis	Anticancer Res. 2022 Jun;42(6):3099-3108. doi: 10.21873/anticanres.15798.	Original Article
169	Yaegashi H, Nohara T, Shigehara K,他	泌尿器科	Survival Outcomes of Patients With Primary Mediastinal Germ Cell Tumors: A Retrospective Single-institutional Experience	Cancer Diagn Progn. 2022 May 3;2(3):352-359. doi: 10.21873/cdp.10116. eCollection 2022 May-Jun.	Original Article
170	Kadono Y.	泌尿器科	Editorial Comment to Impact of nerve sparing in robot-assisted radical prostatectomy on the risk of positive surgical margin and biochemical recurrence	Int J Urol. 2022 Aug;29(8):830. doi: 10.1111/iju.14916. Epub 2022 Apr 26.	Others
171	Iwamoto H, Nakagawa R, Makino T, 他	泌尿器科	Treatment Outcomes in Neuroendocrine Prostate Cancer	Anticancer Res. 2022 Apr;42(4):2167-2176. doi: 10.21873/anticanres.15699.	Original Article
172	Kawaguchi S, Izumi K, Kadomoto S, 他	泌尿器科	Influence of the Coronavirus Disease 2019 Vaccine on Drug Therapy for Urological Cancer	Anticancer Res. 2022 Apr;42(4):2105-2111. doi: 10.21873/anticanres.15692.	Original Article
173	Nohara T, Kadomoto S, Iwamoto H, 他	泌尿器科	Test clamp procedure in robot-assisted partial nephrectomy: is it a safe procedure?	J Robot Surg. 2022 Jun;16(3):633-639. doi: 10.1007/s11701-021-01288-3. Epub 2021 Jul 27.	Original Article
174	Haguku Wajima, Takahiko Hayashi, Akira Kobayashi 他	眼科	Graft rejection episodes after keratoplasty in Japanese eyes.	scientific reports 13(1):2635,2023 Feb	Original Article

175	Tomomi Higashide, Kazuyuki Hirooka, Mitsuhiro Kometan 他	眼科	Aldosterone as a possible contributor to eye diseases.	Endocrinology 164(2):bqac201,2022 Dec	Review
176	Kazuya Mori, Yunyan Ye, Hideaki Yokogawa 他	眼科	Clinical Features of Glaucoma Associated with Cytomegalovirus Corneal Endotheliitis.	Clinical Ophthalmology 16:2705-2711,2022 Aug	Original Article
177	Kobayashi E, Kondo S, Dochi H 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Protein Farnesylation on Nasopharyngeal Carcinoma, Molecular Background and Its Potential as a Therapeutic Target	Cancers (Basel)	Original Article
178	Dochi H, Kondo S, Murata T 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Estrogen induces the expression of EBV lytic protein ZEBRA, a marker of poor prognosis in nasopharyngeal carcinoma	Cancer Sci	Original Article
179	Kondo S, Okuno Y, Murata T, 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	EBV genome variations enhance clinicopathological features of nasopharyngeal carcinoma in a non-endemic region	Cancer Sci	Original Article
180	Misako Kaneda,Sayaka Yagi-Nakanishi,Fumi Ozaki 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	olfactory dysfunction in LATY136F knock-in mice	Auris Nasus Larynx.2022 Apr;49(2)209-214	Original Article
181	Takashi Iizuka, Ping Yin, Azna Zuberi, et al.	産科婦人科	Mono-(2-ethyl-5-hydroxyhexyl) phthalate promotes uterine leiomyoma cell survival through tryptophan-kynurenine-AHR pathway activation.	Proc Natl Acad Sci U S A. 119(47):e2208886119, 2022 Nov 22	Original Article

182	Takeo Matsumoto, Takashi Iizuka, Mitsuhiro Nakamura, et al.	産科婦人科	FOXP4 inhibits squamous differentiation of atypical cells in cervical intraepithelial neoplasia via an ELF3-dependent pathway.	Cancer Sci. 113(10):3376-3389, 2022 Oct	Original Article
183	Tsutsui T, Misaki K, Yoshikawa A et al.	脳神経外科	Targeted transvenous embolization of a dural arteriovenous fistula at the jugular tubercle venous complex	Surg Neurol Int. 3;14:44. 2023 Feb	Case report
184	Nogami K, Misaki K, Tsutsui T et al.	脳神経外科	The first coil embolization ratio is the key factor for retreatment for unruptured cerebral aneurysms	Surg Neurol Int 10;14:53, 2023 Feb	Original Article
185	Misaki K, Kamide T, Uno T et al.	脳神経外科	Evaluation of a scoring system to assess proficiency in cerebral angiography for neuroendovascular surgery education	Heliyon. 27;9(2):e13249, 2023 Jan	Original Article
186	Nambu K, Kamide T, Tsutsui T et al.	脳神経外科	Partially thrombosed distal posterior cerebral artery aneurysm treated with surgical trapping through occipital transtentorial approach assisted by endovascular coil embolization	Surg Neurol Int. 20;14:20 2023 Jan	Case report
187	Shomura K, Kamide T, Misaki K et al.	脳神経外科	Multiple endovascular treatments for hemorrhagic cerebral proliferative angiopathy: A case report.	Case Rep in Neurol. 14: 433-440, 2022	Case report
188	Kamide T, Misaki K, Tsutsui T et al.	脳神経外科	Comparison of Endovascular Therapy for Ruptured Cerebral Aneurysm during Spasm and Nonspasm Period.	Asian J Neurosurg. 17(3): 412-415, 2022	Original Article

189	Ichinose T, Kinoshita M, Nakajima R et al.	脳神経外科	Recovery of Visual Field After Awake Stimulation Mapping of the Optic Pathway in Glioma Patients.	Brain Topogr. 36(1):87-98, 2023 Jan	Case report
190	Kobayashi M, Sasagawa Y, Nakada S et al.	脳神経外科	Dural metastasis from prostate carcinoma mimicking tuberculum sellae meningioma: A case report.	Surg Neurol Int. 13: 407, 2022	Case report
191	Nambu I, Misaki K, Uno T et al.	脳神経外科	Recurrence pattern predicts aneurysm rupture after coil embolization.	PLoS One. 17: e0261996, 2022	Original Article
192	Oikawa N, Misaki K, Aono D et al.	脳神経外科	Panhypopituitarism caused by an unruptured giant cavernous internal carotid artery aneurysm compressing the pituitary gland treated with a flow-diverting stent: A case report.	Surg Neurol Int. 13: 378, 2022	Case report
193	Wang Y, Sakaguchi M, Sabit H	脳神経外科	COL1A2 inhibition suppresses glioblastoma cell proliferation and invasion.	J Neurosurg.138(3):639-648, 2022 Aug	Original Article
194	Oikawa N, Kinoshita M, Yamamura M et al.	脳神経外科	Non-occlusive mesenteric ischemia during bevacizumab treatment for glioblastoma: a case report.	Acta Neurochir (Wien). 164: 2767-2771, 2022	Case report
195	Nakajima R, Kinoshita M, Okita H et al.	脳神経外科	Posterior-prefrontal and medial orbitofrontal regions play crucial roles in happiness and sadness recognition.	Neuroimage Clin. 35: 103072, 2022	Original Article

196	Tamai S, Ichinose T, Tsutsui T et al.	脳神経外科	Tumor Microenvironment in Glioma Invasion.	Brain Sci. 12: 505, 2022	Review
197	Tanaka S, Kobayashi M, Ichinose T et al.	脳神経外科	Intraoperative rupture of intracerebral aneurysm immediately after meningioma resection: a case report.	BMC Neurol. 22: 135, 2022	Case report
198	Tamai S, Kinoshita M, Nakajima R et al.	脳神経外科	Two different subcortical language networks supporting distinct Japanese orthographies: morphograms and phonograms.	Brain Struct Funct. 227: 1145-1154, 2022	Original Article
199	Misaki K, Sano H, Tsutsui T et al.	脳神経外科	Improvement of intrapartum reversible cerebral vasoconstriction syndrome over 12 weeks after onset.	J Med Case Rep Case Series. 3: 15, 2022	Case report
200	Morita K, Tanaka S, Tamai S	脳神経外科	Spinal hemangioblastoma with syringomyelia manifesting as neurological dysfunction progressing over the course of 17 years: A case report.	Interdisciplinary Neurosurgery. 32: 101631, 2022	Case report
201	Norihito Akatani, Hiroshi Wakabayashi, Daiki Kayano, et al.	核医学診療科	Long-term outcomes and prognostic factors of patients with lung metastases from differentiated thyroid cancer after radioiodine therapy in Japan	Endocrine Journal. 28;70(3):315-322. 2023 Mar	Original Article
202	Nakajima K, Saito S, Chen Z, et al.	核医学診療科	Diagnosis of Parkinson syndrome and Lewy-body disease using 123I-ioflupane images and a model with image features based on machine learning.	Annals of Nuclear Medicine. 36(8):765-776. 2022 Aug	Original Article

203	Yuji Kunita, Kenichi Nakajima, Tomoaki Nakata, et al.	核医学診療科	Prediction of multivessel coronary artery disease and candidates for stress-only imaging using multivariable models with myocardial perfusion imaging	Annals of Nuclear Medicine. 36(7):674-683. 2022 Jul	Original Article
204	Watanabe S, Nakajima K, Wakabayashi H, et al.	核医学診療科	Volumetric evaluation of 99mTc-pyrophosphate SPECT/CT for transthyretin cardiac amyloidosis: Methodology and correlation with cardiac functional parameters.	Journal of Nuclear Cardiology. 29(6):3102-3110. 2022 Dec	Original Article
205	Koroku Kato , Hiroki Miyazawa , Shuichi Kawashiri 他	歯科口腔外科	Tumour: Fibroblast Interactions Promote Invadopodia-Mediated Migration and Invasion in Oral Squamous Cell Carcinoma	Journal of Oncology 26;2022:5277440, 2022 Nov.	Original Article
206	Rei Jokaji , Kazuhiro Ooi , Shuichi Kawashiri 他	歯科口腔外科	Evaluation of factors related to morphological masseter muscle changes after preoperative orthodontic treatment in female patients with skeletal class III dentofacial deformities	BMC Oral Health 22(1):292, 2022 Jul.	Original Article
207	Yoshiaki Futani , Kazuhiro Ooi , Shuichi Kawashiri 他	歯科口腔外科	Evaluation of Rhythmic Masseter Muscle Activity during Sleep and Awake in Patients with Dentofacial Deformity	Journal of Maxillofacial and Oral Surgery 21(2):481-486, 2022 Jun.	Original Article
208	Nanjo S, Wu W, Yano S, et al.	がんセンター	Deficiency of the splicing factor RBM10 limits EGFR inhibitor response in EGFR-mutant lung cancer.	J Clin Invest. 2022 Jul 1;132(13)	Original Article
209	Ohtsubo K, Miyake K, Yano S, et al.	がんセンター	Methylation of Tumor Suppressive miRNAs in Plasma from Patients with Pancreaticobiliary Diseases.	Cancer Diagn Progn. 2022 May 3;2(3):378-83.	Original Article

210	Suzuki C, Nishiyama A, Yano S, et al.	がんセンター	Inhibition of EGFR and MEK surmounts entrectinib resistance in a brain metastasis model of NTRK1-rearranged tumor cells.	Cancer Sci. 2022 Jul;113(7):2323-35.	Original Article
211	Nishiyama A, Hattori Y, Yano S, et al.	がんセンター	Severe skin toxicity caused by sequential anti-PD-1 antibody and alectinib in non-small-cell lung cancer: a report of two cases and a literature review.	Intern Med. 2022 Jun 1;61(11):1735-38.	Review
212	Yusuke Nakade, Yasunori Iwata, Norihiko Sakai 他	検査部	Increased levels of oral Streptococcus-derived D-alanine in patients with chronic kidney disease and diabetes mellitus	Scientific Reports 12:21773,2022 Dec.(オンライン)	Original Article
213	Yukiko Takemori-Sakai, Kenji Satou, Yasuko Senda 他	検査部	Rare toxin A-negative and toxin B-positive strain of Clostridioides difficile from Japan lacking a complete tcdA gene.	Journal of Infection and Chemotherapy 28 (5):651-656,2022 May	Case report
214	Toshima F, Inoue D, Kozaka K, et al.	放射線部	Can solid pseudopapillary neoplasm of the pancreas without degeneration be diagnosed with imaging? a comparison study of the solid component of solid pseudopapillary neoplasm, neuroendocrine neoplasm, and ductal adenocarcinoma.	Abdom Radiol (NY). 2023 Mar;48(3):936-951.	Original Article
215	Ikufumi Takahashi, Taro Matsuzaki, Masahiro Hoso.	リハビリテーション部	Immunohistochemical study on the distribution of telocytes in the knee joint components in a rat osteoarthritis model.	J Phys Ther Sci 2022; 34(8): 596-601.	Original Article
216	Naoki Mugii, Yasuhito Hamaguchi, Takashi Matsushita 他	リハビリテーション部	Longitudinal changes in nailfold video capillaroscopy findings differ by myositis specific autoantibody in idiopathic inflammatory myopa	Rheumatology (Oxford). 2023 Mar 1;62(3):1326-1334.	Original Article

217	Takaya Watabe, Tomoya Takabayashi, Yuta Tokunaga 他	リハビリテーション部	Copers exhibit altered ankle and trunk kinematics compared to the individuals with chronic ankle instability during single-leg landing	Sports Biomechanics, 2022 Apr (オンライン)	Original Article
218	Yoshikazu Goto	救急部	No association of CPR duration with long-term survival.	Resuscitation 2023;182:109677, 2023 Jan	Others
219	Yoshikazu Goto, Akira Funada, Testuo Maeda 他	救急部	Termination-of-resuscitation rule in the emergency department for patients with refractory out-of-hospital cardiac arrest: A nationwide, population-based observational study.	Crit Care 2022;26:137. 2022 May	Original Article
220	Koji Sato, Chikako Tsuda, Shohei Odawara 他	集中治療部	Effect of high-flow nasal cannula therapy on thirst sensation and dry mouth after extubation: A single-centre prospective cohort study	Intensive & Critical Care Nursing 74, 2023 Feb	Original Article
221	Kaori Yoshimura,Yuko Tamano,Hiep Nguyen Canh 他	病理部	A novel pathologic marker,indoleamine 2,3-dioxygenase 1,for the cholangiopathy of immune checkpoint inhibitors-induced immune mediated hepatotoxicity as adverse events and the predeiction of additional ursodeoxycholic acid treatment	Med Mol Morphol. 2023 Jun;56(2):106-115.doi: 10.1007/s00795-022-00344-7. Epub 2023 Jan 4.	Original Article
222	Watanabe Y, Hosokawa N, Yoshida M, Miura T, Kawano M.	先端医療開発センター	Identification of closed linear epitopes in S1-RBD and S2-HR1/2 of SARS-CoV-2 Spike protein able to induce neutralizing Abs.	Vaccines, 11: 287, 2023.	Original Article
223	Jia Yu, Yasuhito Imai, Akihiro Nomura, Takashi Yoneda, Toshinori Murayama	先端医療開発センター	Use of electronic consent forms in an observational pilot study of coronavirus disease in Japan	Japanese Pharmacology & Therapeutics, 50 suppl.2: 154-165, 2022.	Others

224	Yuya Futagi, Yukio Suga, Tsutomu Shimada 他	薬剤部	Impact of antithymocyte globulin on blood cyclosporin A levels in aplastic anemia patients	Ann Hematol. 102(2):463-465. 2023 Feb;	Original Article
225	Junya Nakade, Yoko Nakamura, Yusuke Katayama他	薬剤部	Systematic active environmental surveillance successfully identified and controlled the Legionella contamination in the hospital	J Infect Chemothe. 29(1):43-47. 2023 Jan	Original Article
226	Yuya Futagi, Yuriko Ito, Junya Nakade他	薬剤部	Ceftriaxone-induced encephalopathy in a patient with a solitary kidney	Int J Infect Dis.122:722-724. 2022 Sep	Case report
227	Arimi Fujita, Saki Noguchi, Rika Hamada他	薬剤部	Quantitative Comparison of Breast Cancer Resistance Protein (BCRP/ABCG2) Expression and Function Between Maternal Blood-Brain Barrier and Placental Barrier in Mice at Different Gestational Ages	Front. Drug Deliv.,2, 2022, July	Original Article

計227件

（注）1　当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2　報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）

3　「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4　「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5　「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）; 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。
記載例：　Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9　/　Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6　「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計　件

（注）1　当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2　記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

（様式第 3）

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3　高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

①　倫理審査委員会の設置状況	㊒・無
②　倫理審査委員会の手順書の整備状況	㊒・無
・　手順書の主な内容 審査対象に関する事項、委員会の組織に関する事項、委員会の会議に関する事項、申請手続き及び結果の報告に関する事項、疑義申立てに関する事項、迅速審査に関する事項、実施状況の調査等に関する事項、資料の入手に関する事項、委員会の運営に関する事項、記録の保存に関する事項	
③　倫理審査委員会の開催状況	年１１回

（注）　1　倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に〇印を付けること。
2　前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

①　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	㊒・無
②　利益相反の管理に関する規定の整備状況	㊒・無
・　規定の主な内容 委員会の目的及び職務に関する事項、委員会の組織及び組織運営に関する事項	
③　利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年１回

（注）前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

①　臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年１２回
・研修の主な内容 臨床研究の研究責任者、研究分担者その他の研究の実施に携わる者又は今後研究の実施に携わる予定の者を対象に、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針に関する事項、研究デザインに関する事項、臨床研究の品質保証に関する事項、その他生命科学・医学系研究の実施に当たり必要となる知識・技術等に関連する事項について講習会を実施。	

（注）前年度の実績を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1　研修の内容

各専門研修プログラムに沿って各診療科に所属し、大学病院及び連携病院を循環しながら修練を行い、それぞれの専門医、あるいは認定医の資格取得を目指します。
　また、診療技術の習得だけでなく臨床研究も行う事が可能である。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2　研修の実績

上記研修を受けた医師数	148人

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3　研修統括者

研修統括者氏名	診　療　科	役　職　等	臨床経験年数	特　記　事　項
山下　太郎	消化器内科	科長	28年	
篁　　俊成	内分泌・代謝内科	科長	35年	
水島　伊知郎	リウマチ・膠原病内科	科長	20年	
矢野　聖二	呼吸器内科	科長	33年	
高村　雅之	循環器内科	科長	30年	
坂井　宣彦	腎臓内科	科長	27年	
宮本　敏浩	血液内科	科長	32年	
小野　賢二郎	脳神経内科	科長	23年	
菊知　充	神経科精神科	科長	29年	
和田　泰三	小児科	科長	31年	
小林　聡	放射線科	科長	33年	
髙松　繁行	放射線治療科	科長	22年	
松下　貴史	皮膚科	科長	24年	
竹村　博文	心臓血管外科	科長	38年	
松本　勲	呼吸器外科	科長	32年	
稲木　紀幸	消化管外科	科長	26年	
八木　真太郎	肝胆膵・移植外科	科長	26年	
寺川　裕史	乳腺外科	科長	15年	
酒井　清祥	小児外科	科長	21年	
加畑　多文	整形外科	副科長	30年	
溝上　敦	泌尿器科	科長	36年	
杉山　和久	眼科	科長	39年	
吉崎　智一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	科長	37年	
藤原　浩	産科婦人科	科長	40年	
谷口　巧	麻酔科蘇生科	科長	32年	
中田　光俊	脳神経外科	科長	29年	
絹谷　清剛	核医学診療科	科長	37年	
野村　英樹	総合診療科	科長	35年	
八幡　徹太郎	リハビリテーション科	科長	31年	
岡島　正樹	救急科	科長	27年	
池田　博子	病理診断科	科長	21年	
谷口　巧	集中治療部	部長	32年	
矢野　聖二	がんセンター	センター長	33年	
川尻　秀一	歯科口腔外科	科長	35年	

（注）1　医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注）2　内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（注）3　外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

（様式第 4）

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4　医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

①　医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 新規採用職員オリエンテーション（詳細別添＊新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、集合研修は中止とし各所属部署での配付資料・動画視聴を用いた学習を実施） 新規採用職員に対し、本院職員として職務遂行に必要な知識及び心構え等の基本的な事項を習得させ、資質向上と業務効率の増進を図ることを目的とする。 ・研修の期間・実施回数 令和4年4月1日（金）～4月22日（金） ・研修の期間・実施回数 141名（うち、医師・歯科医師以外の者は116名）
②　業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 １．情報セキュリティe-ラーニング ２．「ハラスメント防止」に関する研修 ３．「法人文書管理」に関する研修 ４．「個人情報の適切な管理」に関する研修 ・研修の期間・実施回数 １．令和4年4月12日（火）～6月30日（木） ２．令和5年1月16日（月）～2月17日（金） ３．令和4年10月12日（水）～12月28日（水） ４．令和4年5月16日（月）～12月28日（水） ・研修の参加人数 １．1577名 ２．1121名 ３．　908名 ４．1459名
③　他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

（注）1　高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

（注）2　「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

（様式第 5）

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1．計画　　②．現状
管理責任者氏名	病院長　蒲田 敏文
管理担当者氏名	・副病院長（診療・経営担当）　高村　雅之 ・副病院長（看護担当）　辻　千芽 ・病院長補佐（法務・医療情報担当）　長瀬　啓介 ・病院長補佐（薬剤担当）　崔　吉道 ・総務課長　東川　純也 ・経営管理課長　辻田　恵 ・医事課長　山田　浩美 ・医療支援課長　川﨑　貢

			保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課	外来病歴ファイルは１患者１ファイル、入院病歴ファイルは、１入院期間１ファイル。 診療録の院外持ち出しは禁止されている
		各科診療日誌	医事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	看護部、医事課	
		検査所見記録	医事課	
		エックス線写真	医事課	
		紹介状	医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
		高度の医療の提供の実績	経営管理課、医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課、経営管理課 医薬保健系事務部	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療支援課	

			保 管 場 所	管　理　方　法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療支援課	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療支援課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療支援課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部、医療支援課	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部、医療支援課	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部　医療支援課	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経営管理課、ME機器管理センター、放射線部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経営管理課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経営管理課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	総務課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部、医療支援課	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課	
		医療安全管理部門の設置状況	総務課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療支援課	
		監査委員会の設置状況	総務課、医療支援課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療支援課	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療支援課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務課、医療支援課	
		職員研修の実施状況	医療支援課、総務課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療支援課	
		管理者が有する権限に関する状況	総務課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務部	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部	

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

（様式第6）

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1．計画　　(2) 現状
閲覧責任者氏名	病院長　蒲田 敏文
閲覧担当者氏名	総務課長　東川　純也
閲覧の求めに応じる場所	・ 会議室

閲覧の手続の概要
諸記録の開示（閲覧を含む）を請求する者（以下「開示請求者」）は、国立大学法人金沢大学に対し、法人文書開示請求書を提出する。
国立大学法人金沢大学は、開示請求があった日から特別な場合を除き30日以内に開示決定等を行い、開示請求者に通知する。
開示請求者は、法人文書開示決定通知書を本院へ持参し、閲覧を実施する。

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延　0　件
閲覧者別	医師	延　件
	歯科医師	延　件
	国	延　件
	地方公共団体	延　件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第１条の 11 第１項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊒・無
・　指針の主な内容： （１）職員ひとりひとりが安全に関する認識を高め，医療事故防止に積極的に取り組むと同時に，病院全体としても組織的に医療に係る安全管理事故防止に取り組み，医療事故等の未然の防止を目指す。 （２）医療安全管理委員会，医療安全管理部，医療安全管理者，リスクマネジャー等による医療安全管理体制を整備し，病院全体として医療事故防止及び医療全体の向上に努める。 （３）医療安全管理のための研修を企画し，病院職員全体が２回以上受講できるようにする。 （４）「医療事故防止マニュアル」の作成，医療事故等の報告事例の検討など，医療安全の確保を目的とした改善方策を実施する。 （５）医療事故が発生した場合にはおいては，「医療安全管理マニュアル」に沿って対応し，医療上の最善の処置を講ずる。また，患者家族に対して事実を速やかにわかりやすく説明する。 （６）患者との信頼関係を築くため，また開かれた医療を推進するため，情報の開示及び提供に積極的に対応していく。 （７）患者相談室を設置し、患者及び家族からの医療安全に関する要望、苦情及び不満を真摯に受け止め、その解決に尽力する。	
②　医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・　設置の有無（　㊒・無　） ・　開催状況：年　１２　回 ・　活動の主な内容： （１）医療に係る安全管理対策に関すること。 （２）医療事故防止対策に関すること。 （３）発生した医療事故等の原因の調査及び分析に関すること。 （４）分析結果を活用した改善策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。 （５）改善策の実施状況の調査及び当該方策の見直しに関すること。 （６）患者が死亡若しくは死産した場合及び濃厚な処置や治療を要した事象が発生した場合の報告の実施状況の確認に関すること。 （７）安全管理のための教育及び研修に関すること。 （８）その他医療に係る安全管理及び医療事故防止に関すること。 （９）改善策の実施状況の調査等の目的のため，定期的に関係部署の巡回を行う。	
③　医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年　５　回
・　研修の内容（すべて）： ◆対面及びE－learningにて実施 ・医療安全管理マニュアル改訂のポイント （対面開催日2022.9.26、E－learning 2022.10.12-2023.3.31） ・せん妄と薬/薬剤師の役割とプレアボイド/輸注ポンプの安全な使用と管理 （対面開催日2022.11.14、E－learning 2022.12.6-2023.3.31） ・患者安全教育と患者安全のための教育 （対面開催日2023.2.1、E－learning 2023.2.8-2023.3.31） ◆対面及びオンライン配信にて実施 ・医療安全におけるAiの活用（開催日2022.10.31）	

・ベッドからの転落により急性硬膜下血腫を来した1事例（開催日2023.3.13） その他、新規採用者研修「リスクマネジメントについて」 （４月に開催。その後は随時）
④　医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況
・　医療機関内における事故報告等の整備　（　㊒・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： 〇事故報告等の分析結果を現場へフィードバック 〇医療従事者の医療事故防止に関する教育 〇事故防止のための基礎知識の提供 〇事故報告書等から必要なマニュアルを作成 〇インシデントサマリに再発防止策を提案 〇事故防止マニュアルの見直し 〇GRM等による医療現場のラウンド 〇院内の医療安全ニュースや啓発ポスターの配布 〇院外の事故情報の提供による注意喚起

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第１号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①　院内感染対策のための指針の策定状況	㊒・無
・　指針の主な内容： 1.院内感染対策に関する基本的な考え 2.院内感染対策のための委員会に関する基本的事項 3.院内のすべての従事者に対する院内感染対策のための研修に関する基本方針 4.感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5.院内感染発生時の対応に関する基本方針 6.患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7.抗菌薬の適正使用に関する基本方針 8.院内感染対策の推進のために必要なその他の基本方針	
②　院内感染対策のための委員会の開催状況	年　12　回
・　活動の主な内容： (1) 院内感染予防の方策及び監視に関すること (2) 院内感染対策のガイドラインの策定及びその実施に関すること (3) 院内感染についての教育活動に関すること (4) 院内感染の調査に関すること (5) 感染制御部の運営に必要な事項に関すること その他院内感染に関して委員会が必要と認める事項	
③　従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年　2　回
・　研修の内容（すべて）： e-ラーニングを基本とし、一部対面研修を併用して実施した。 ・基本の感染予防策：標準予防策、経路別予防策、多剤耐性緑膿菌発生報告(2022年9月-2023年3月31日) ・空気感染対策：結核の診かた(2022年12月-2023年3月31日) その他（随時）：新規採用者研修、対象別研修（清掃、リネン・寝具、調理、安全教育専任看護師養成、看護部ケアアシスタント、リハビリ、研修医、新人看護師）	
④　感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・　病院における発生状況の報告等の整備　（　㊒・無　） ・　その他の改善のための方策の主な内容： （１）院内感染サーベイランスの実施と分析・評価 （２）ICTラウンドによる感染対策実施行動の確認と指導 （３）職業感染防止対策のための計画・実施・評価 （４）感染管理システムを活用した情報共有 （５）感染制御担当者による現場における院内感染対策活動の実施及び所属職員への周知徹底 （６）抗菌薬の使用及び病原微生物分離状況の分析・評価に基づく抗菌薬適正使用の推進	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第２号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年　1回
・　研修の主な内容： 令和4年度実施 医療安全研修（医薬品安全管理研修　2022年11月-2023年3月 eラーニング形式） ・せん妄と薬、プレアボイド報告	
③　医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・　手順書の作成　（　(有)・無　） ・　手順書の内訳に基づく業務の主な内容： １）医薬品の採用　２）医薬品情報の収集・管理・提供　３）医薬品の購入管理 ４）外来および入院患者への医薬品の供給　５）病棟における医薬品の管理 ６）入院患者への医薬品使用　７）ハイリスク薬の取り扱い　８）院内製剤の取り扱い ９）外来患者への情報提供と薬学的指導　１０）外来・中央診療施設の薬品管理 １１）放射性医薬品の安全管理・安全使用	
④　医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医薬品に係る情報の収集の整備　（　(有)・無　） ・　未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 短腸症候群による小腸機能不全関連性肝障害に対するω3系脂肪酸製剤(オメガベン)の使用（院内高難度新規医療技術評価委員会にて審議・承認） ・　その他の改善のための方策の主な内容： 未承認等の医薬品の使用の情報については調剤担当薬剤師や病棟担当薬剤師が処方鑑査で把握する。把握した内容を副薬剤部長が集約し、医薬品安全管理責任者（薬剤部長）に適宜報告するとともに、根拠資料（ガイドライン、文献等）を集積・保管する。 未承認等の医薬品および採用されている医薬品全般の情報については、医薬品情報管理担当薬剤師が添付文書の他、医薬品製造販売業者、行政機関、学術誌等から収集・管理し、必要なものについては当該医薬品を取り扱う医療スタッフに周知する。 医薬品安全管理責任者は、院内各部署に置く医薬品安全管理主任者（リスクマネジャーが兼務）の立ち会いの下に定期的に院内ラウンドを実施し、医薬品安全使用のための業務の実施状況を確認する。改善が必要と認められる事案についてはこれを指示し、結果を医療安全管理委員会に報告する。また未承認等医薬品の情報等をふまえ、必要に応じて診療科等に注意喚起情報を周知する。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第１条の 11 第２項第３号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①　医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
②　従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年　33　回
・　研修の主な内容： 有効性、安全性に関する事項、使用方法、保守点検に関する事項、不具合等が発生した場合の対応使用に関して特に法令上遵守すべき事項	
③　医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・　医療機器に係る計画の策定　　（　(有)・無　） ・　機器ごとの保守点検の主な内容： 外観チェック、動作チェック、漏れ電流チェック、精度管理、バッテリー性能チェック	
④　医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・　医療機器に係る情報の収集の整備　　（　(有)・無　） ・　未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無し ・　その他の改善のための方策の主な内容： 定期点検時の点検項目や方法の見直し	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第９条の２０の２第１項第１号から第１３号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	㊒・無

・責任者の資格（医師・歯科医師）
・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況

副病院長（医療安全担当）が医療安全管理責任者として，医療安全管理部、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。

② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（ 6 名）・無

③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況
・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況
医薬品情報管理担当者が PMDA メディナビやメーカーからの情報、文献、新聞等から収集、整理し、緊急度や周知すべき対象等に応じて、院内メールや印刷物の配布を行う。電子カルテシステム内の医薬品情報 web 検索システムや院内業務支援ページより閲覧が可能。また病棟担当者等による病棟勉強会や、院内の医薬品安全管理研修会での周知も定期的に行っている。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況
病棟担当および調剤担当の薬剤師が処方監査で、また薬剤師が常駐していない診療科等においてはリスクマネジャーが未承認等の医薬品の処方を把握している。対応内容は、担当副薬剤部長に集約し、薬剤部長（医薬品安全管理責任者）に適宜報告するとともに、エクセルファイルと根拠資料（ガイドラインや文献）をファイリングして、事例を集積している。また併用禁忌薬については医薬品情報管理担当者が部門システムを用いて定期的にリストアップし薬剤部長に報告している。今後は、電子カルテに JAPIC データベースを搭載し、病名からもチェックが可能なシステムを準備中である。

・担当者の指名の有無（㊒・無）
・担当者の所属・職種：別紙のとおり

（所属：　　，職種　　）	（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）	（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）	（所属：　　，職種　　）
（所属：　　，職種　　）	（所属：　　，職種　　）

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	㊒・無

・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無　（ ㊒・無 ）
・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：医療安全管理者等による IC 監査を実施した。（年３回）
●主な指導内容：
説明文書・同意書をイメージファイリング化し、電子カルテに保管すること
インフォームドコンセントの概要を電子カルテに記録すること

⑤　診療録等の管理に関する責任者の選任状況	㊒・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：
　各診療科の監査担当医が実施した診療録監査、インフォームドコンセント監査の結果をもとに、診療録等の管理責任者が記載状況及び内容の確認を行った。（年 6 回）
　主な指導内容：インフォームドコンセント実施時、経過記録への説明内容及び患者の理解度の記載。起こりうる合併症について一般論のみならず患者固有のリスクが存在することを記載。

⑥　医療安全管理部門の設置状況	㊒・無

・所属職員：専従（５）名、専任（２）名、兼任（１２）名
　うち医師：専従（１）名、専任（２）名、兼任（４）名
　うち薬剤師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（１）名
　うち看護師：専従（１）名、専任（０）名、兼任（４）名
（注）報告書を提出する年度の 10 月１日現在の員数を記入すること
・活動の主な内容：
（１）　医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策の企画・立案及び業務改善計画に関すること。
（２）　医療安全管理マニュアルの作成等に関すること。
（３）　安全管理のための教育及び研修の企画・運営に関すること。
（４）　インシデント報告及び患者の死亡若しくは死産報告の調査・分析に関すること。
（５）　リスクマネジャーとの連絡調整に関すること。
（６）　医療事故等に係る診療録及び看護記録等の記載状況の確認・指導に関すること。
（７）　患者及び家族等への説明等、医療事故発生時の対応状況の確認・指導に関すること。
（８）　医療事故等に係る原因究明の確認及び指導に関すること。
（９）　金沢大学附属病院医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成、保存その他当該委員会の事務に関すること。
（１０）その他医療に係る安全管理対策及び医療事故防止対策に関すること。

【モニタリングの具体例】
・入院患者に対する肺血栓塞栓症リスク評価と予防策の実施率
・注射薬投与時の PDA 認証の実施率
・ＲＲＴコール報告
・病理診断レポートの未読/既読状況
・画像診断レポートの未読/既読状況

※　平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
※　医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦　高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（　13　件）、及び許可件数（ 13　件）
・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（　㊒・無　）
・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　㊒・無　）
・活動の主な内容：
　(1)　高難度新規医療技術等の提供の適否決定に関すること。

(2)　高難度新規医療技術等の提供後の確認に関すること。
(3)　その他高難度新規医療技術等の提供に関すること。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　）
・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（　有・無　）

⑧　未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（ 0　件）、及び許可件数（ 0　件）
・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（　有・無　）
・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（　有・無　）
・活動の主な内容：
(1)　高難度新規医療技術等の提供の適否決定に関すること。
(2)　高難度新規医療技術等の提供後の確認に関すること。
(3)　その他高難度新規医療技術等の提供に関すること。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（　有・無　）
・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無　（　有・無　）

⑨　入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年　235　件
・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 3476　件
・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
（１）医療に係る安全管理対策に関すること。
（２）医療事故防止対策に関すること。
（３）発生した医療事故等の原因の調査及び分析に関すること。
（４）分析結果を活用した改善策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること。
（５）改善策の実施状況の調査及び当該方策の見直しに関すること。
（６）患者が死亡若しくは死産した場合及び濃厚な処置や治療を要した事象が発生した場合の報告の実施状況の確認に関すること。
（７）安全管理のための教育及び研修に関すること。
（８）その他医療に係る安全管理及び医療事故防止に関すること。
（９）改善策の実施状況の調査等の目的のため，定期的に関係部署の巡回を行う。

⑩　他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（　有（病院名：香川大学　　）・無）
・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（　有（病院名：島根大学　　）・無）
・技術的助言の実施状況
　転倒・転落リスクアセスメントの年１回の改訂をとの助言を受けた。これに対し、転倒転落防止対策チームにて検討をしており、基礎データを集積中である。

⑪　当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
・体制の確保状況 患者相談室においてGRM、事務職員が相談窓口となり対応している。窓口活動については院内にポスターを掲示しパンフレットを配置するとともに、ホームページに掲載している。

⑫　職員研修の実施状況
・研修の実施状況 「医療安全管理マニュアル改訂のポイント」 （対面開催日2022.9.26、E－learning 2022.10.12-2023.3.31） 【項目】 病院機能評価、医療スタッフマニュアル、インシデントレポート、内部通報窓口、医療事故発生時の緊急連絡体制、根本原因分析（RCA）、病理解剖関連、患者リストバンド、鎮静、院内急変対応、無断離院、報告書、インフォームドコンセント、M&M カンファレンス、転倒・転落防止、病理診断・画像診断の未読対策

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬　管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
・研修の実施状況 公益財団法人日本医療機能評価機構主催の特定機能病院管理者研修に管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全責任者及び医療機器安全管理責任者が参加した。

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況
・第三者による評価の受審状況 公益財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価「一般病院３（3rdG:Ver.2.0）」を受審。認定承認されている。 （認定期間　２０２０年７月２５日　～　２０２５年７月２４日　） ・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況 病院ＷＥＢサイトに公開している ・評価を踏まえ講じた措置 ２０２３年３月の再審査で改善の取り組みが一定の水準に達していると判断され、認定された。

（注）記載時点の状況を記載すること

別　紙

13. 医薬品に係る安全管理のための体制の確保

⑲医療法施行規則第9条の23第1項第3号に規定する事項

医薬品安全管理責任者が指名した担当者

氏　名	職　名	担　当
山本奈歩	薬剤師	医薬品情報管理担当者
原　祐輔	薬剤師	調剤担当
坪内　清貴	薬剤師	調剤担当
田中　祐子	薬剤師	調剤担当
長田　幸恵	薬剤師	調剤担当
橋本　さつき	薬剤師	調剤担当
板井　進悟	薬剤師	調剤担当
川上　貴裕	薬剤師	調剤担当
矢口　邦子	薬剤師	調剤担当
髙林　真貴子	薬剤師	調剤担当
辻　千明	薬剤師	調剤担当
磯田　和也	薬剤師	調剤担当
磯田　紗也加	薬剤師	調剤担当
中川　祐紀子	薬剤師	調剤担当
三坂　恒	薬剤師	調剤担当
志村　裕介	薬剤師	調剤担当
大西　あゆみ	薬剤師	調剤担当
加藤彩香	薬剤師	調剤担当
中村　良恵	薬剤師	調剤担当
毛利　香菜	薬剤師	調剤担当
二木　悠哉	薬剤師	調剤担当
石林　朋子	薬剤師	調剤担当
渋谷　成美	薬剤師	調剤担当
泉　実公子	薬剤師	調剤担当
松田　拓己	薬剤師	調剤担当
竹本　弘樹	薬剤師	調剤担当
橋本　佳奈	薬剤師	調剤担当
赤下　学	薬剤師	調剤担当
古賀　友梨香	薬剤師	調剤担当
加藤　美咲	薬剤師	調剤担当

津澤　歩実	薬剤師	調剤担当
寺田　早苗	薬剤師	調剤担当
北間　基子	薬剤師	調剤担当

浅井　泰詞	薬剤師	病棟担当
塩本　佑季子	薬剤師	病棟担当
吉田　幸司	薬剤師	病棟担当
島田　拓弥	薬剤師	病棟担当
上田　里佳子	薬剤師	病棟担当
木村　円	薬剤師	病棟担当
下川　頌子	薬剤師	病棟担当
伊藤　ゆり子	薬剤師	病棟担当
東　昴翔	薬剤師	病棟担当
水野　ふみ	薬剤師	病棟担当
堀　祐貴	薬剤師	病棟担当
岡野　麻衣	薬剤師	病棟担当
島田　萌子	薬剤師	病棟担当
金　俊孝	薬剤師	病棟担当
西澤　理愛	薬剤師	病棟担当
西山　由紀子	薬剤師	病棟担当
谷島　優	薬剤師	病棟担当
居林　優輝	薬剤師	病棟担当
鈴木　拓也	薬剤師	病棟担当
西川　達也	薬剤師	病棟担当

規則第７条の２の２第１項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

(1) 人格が高潔で、学識が優れている者

(2) 医師免許を有している者

(3) 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者

高度かつ先進的な医療を提供する特定機能病院の管理者として、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有するとともに次に掲げるいずれかの業務に従事した経験を有する者

① 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者又は医療機器安全管理責任者の業務

② 医療安全管理委員会の構成員としての業務

③ 医療安全管理部門における業務

④ その他病院全体に係る上記に準ずる業務

(4) 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者

金沢大学附属病院又は金沢大学附属病院以外での組織管理経験があり、病院職員の意見反映に留意しつつ、医療を取り巻く様々な外的変化に適切に対応し、強いリーダーシップと経営手腕を持って病院経営にあたるとともに、病院の管理者として適正な管理運営ができる者

(5) 金沢大学附属病院の基本理念及び基本方針を確実に遂行できる者

・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）

・ 公表の方法

金沢大学附属病院Webサイトに掲載

規則第７条の３第１項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無

・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ）

・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ）

・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ）

・ 公表の方法

管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由

氏名	所属	委員長（○を付す）	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第９条の２３第１項及び第２項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無

・合議体の主要な審議内容
(1) 中期目標・中期計画に関する事項
(2) 規程の制定又は改廃に関する事項
(3) 予算及び執行並びに決算に関する事項
(4) 自ら行う点検及び評価に関する事項
(5) その他管理運営に関する重要事項

・審議の概要の従業者への周知状況
各診療科等と連絡協議する医局長会議で説明し、医局長会議構成員又は合議体委員が各部署で職員に周知
また、病院職員が閲覧できる業務支援のWebサイトに議事要旨を掲載

・合議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・無 ）
・公表の方法
金沢大学附属病院Webサイトに掲載

・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・無 ）

合議体の委員名簿

氏名	委員長（○を付す）	職種	役職
蒲田　敏文	○	医師	病院長、検査部長、電子顕微鏡センター主任、金大病院 CPD センター長
山下　太郎		医師	消化器内科長、肝臓センター長、小児・成人炎症性腸疾患センター長、疾病予防センター長
篁　　俊成		医師	内分泌・代謝内科長、糖尿病センター長、内分泌センター長
岩田　恭宜		医師	病院長補佐、腎臓・リウマチ膠原病内科長、感染制御部長
矢野　聖二		医師	呼吸器内科長、がんセンター長
高村　雅之		医師	副病院長、循環器内科長、ハートセンター長、脳卒中・心臓病等総合支援センター長
宮本　敏浩		医師	血液内科長、造血・免疫細胞療法センター長
竹内　伸司		医師	腫瘍内科長、がんゲノム医療センター長
野村　英樹		医師	総合診療科長、総合診療部長
小野賢二郎		医師	脳神経内科長
菊知　　充		医師	神経科精神科長、子どものこころの診療科長
和田　泰三		医師	小児科長
小林　　聡		医師	放射線科長、放射線部長
髙松　繁行		医師	放射線治療科長

松下　貴史		医師	皮膚科長
小室　明人		医師	形成外科長
竹村　博文		医師	心臓血管外科長
松本　　勲		医師	呼吸器外科長、材料部長
稲木　紀幸		医師	副病院長、消化管外科長、研修医・専門医総合教育センター長
八木真太郎		医師	肝胆膵・移植外科長、臓器移植センター長
寺川　裕史		医師	乳腺外科長
酒井　清祥		医師	小児外科長
出村　　諭		医師	脊椎・脊髄外科長
溝上　　敦		医師	泌尿器科長
杉山　和久		医師	眼科長
吉崎　智一		医師	副病院長、耳鼻咽喉科・頭頸部外科長
藤原　　浩		医師	産科婦人科長、周産母子センター長、プレコンセプションケアセンター長
谷口　　巧		医師	副病院長、麻酔科蘇生科長、手術部長、集中治療部長、麻酔部長、ＭＥ機器管理センター長
中田　光俊		医師	副病院長、脳神経外科長、脳卒中センター長
絹谷　清剛		医師	核医学診療科長、アイソトープ部長
川尻　秀一		歯科医師	歯科口腔外科長
八幡徹太郎		医師	リハビリテーション科長、リハビリテーション部長
岡島　正樹		医師	病院長補佐、救急科長、救急部長
池田　博子		医師	病理診断科長、病理部長
山﨑　宏人		医師	輸血部長
坂井　宣彦		医師	血液浄化療法部長
鷹取　　元		医師	内視鏡センター長
薄井荘一郎		医師	冠動脈疾患治療部長
渡邉　　淳		医師	遺伝診療部長、遺伝医療支援センター長
谷内江昭宏		医師	副病院長、医療安全管理部長
加畑　多文		医師	地域医療連携室長
森山　秀樹		医師	栄養管理部長
大坪公士郎		医師	外来化学療法センター長
村山　敏典		医師	先端医療開発センター長、臨床開発部長
山田　圭輔		医師	緩和ケアセンター長
川島　博子		医師	乳腺センター長
佐野　滋彦		医師	摂食障害支援センター長
崔　　吉道		薬剤師	病院長補佐、薬剤部長
辻　　千芽		看護師	副病院長、看護部長
長瀬　啓介		医師	病院長補佐、経営企画部長
北村久美子		事務職員	病院長補佐、病院部長
松浦　幸広		診療放射線技師	診療放射線部技師長

規則第１５条の４第１項第１号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

・　管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（　㊒・無　）
・　公表の方法
金沢大学附属病院Webサイトに掲載

・　規程の主な内容
・病院長は本院を代表し、本院の経営及び管理運営等の業務を総括するとともに、職員等を指揮監督する。
・病院長の任務は次のとおりとする。
(1)　本院の運営、管理及び経営に関すること。
(2)　診療部門長、診療科長、中央診療施設の長等の任命に関すること。
(3)　診療科及び各中央診療施設等への人員配置に関すること。
(4)　病院内組織の設置、廃止及び統合に関すること。
(5)　病床、診察室等の配分及び利用形態に関すること。
(6)　予算の院内配分に関すること。

・　管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
・副病院長は、病院長の職務を補佐する。病院長が不在のときは、あらかじめ病院長が指名した副病院長が、その職務を代行する。
・病院長補佐は、病院長の指示する重要事項について、病院長を補佐する。

・　病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
【人事】
・病院長は、運営会議の構成員のうちから副病院長を指名する。
・病院長補佐は、金沢大学の職員から、病院長が任命する。
【研修】
・日本医療機能評価機構が実施する特定機能病院管理者研修を病院長、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者が受講
・厚生労働省委託事業のトップマネジメント研修に病院長が参加。全国医学部長会議主催の医師の働き方改革セミナーに病院長が参加。国立大学病院会議主催の病院長塾に副病院長3名が参加。

規則第１５条の４第１項第２号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	有・無

・監査委員会の開催状況：年　2　回
・活動の主な内容：
（１）　医療安全管理責任者，医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者等の業務の状況について附属病院長(以下「病院長」という。)等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認を実施すること。
（２）　必要に応じ，学長又は病院長に対し，医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。
（３）　前２号に掲げる業務について，その結果を公表すること。
（４）その他医療に係る安全管理の監査に関し必要な事項

・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（　有・無　）
・委員名簿の公表の有無（　有・無　）
・委員の選定理由の公表の有無（　有・無　）
・監査委員会に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・公表の方法：
本院の Web サイトに掲載している。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長（〇を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件該当状況
森岡　浩一	福井大学医学部附属病院	〇	医療安全管理部長として医療安全に関する業務に従事しているため	有・無	1
麻生　小夜	金沢あおば法律事務所		弁護士として法律に関する専門知識に基づき、業務を行っているため	有・無	1
和田　真由美	血液疾患の患者の会「萌の会」		「萌の会」の代表として活動し、医療を受ける立場から意見を述べることができるため	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注）　「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第１５条の４第１項第３号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況
・体制の整備状況及び活動内容 金沢大学内部監査において業務監査及び会計監査を定期的に実施しており、附属病院も対象となっている。 ・ 専門部署の設置の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の整備の有無（ 有・無 ） ・ 内部規程の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 金沢大学附属病院Webサイトに掲載

規則第１５条の４第１項第３号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況
　金沢大学経営協議会において、法人の経営に関する重要事項、予算の作成・執行及び決算に関する事項、組織及び運営の状況について自ら行う点検・評価に関する事項等を審議している。病院担当理事及び病院長が構成員となっているほか、病院長から病院の運営状況について説明している。

・ 会議体の実施状況（　年7回（令和4年度実績））

・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（　有・無　）（　年4回（令和4年度実績））

・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（　有・無　）
・ 公表の方法
　金沢大学附属病院Webサイトに掲載

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：国立大学法人金沢大学経営協議会

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長（○を付す）	利害関係
和田　隆志	金沢大学学長	○	有・無
大竹　茂樹	金沢大学理事（総括・大学改革・附属病院担当）		有・無
中村　慎一	金沢大学理事（研究・社会共創・大学院支援担当）		有・無
塩川　達大	金沢大学理事（総務・財務・施設担当）		有・無
三浦　　要	金沢大学人間社会研究域長		有・無
松本　宏一	金沢大学理工研究域長		有・無
堀　　修	金沢大学医薬保健研究域長		有・無
蒲田　敏文	金沢大学附属病院長		有・無
有松　育子	博報堂DYホールディングス社外取締役 元 国立教育政策研究所所長 元 文部科学省生涯学習政策局長		有・無
大橋　徹二	コマツ取締役会長		有・無
河田　悌一	関西大学東京センター長 元　日本私立学校振興・共済事業団理事長 元　関西大学学長		有・無
後藤ひとみ	北海道教育大学理事（非常勤） 前　愛知教育大学学長		有・無
里見　　進	日本学術振興会顧問 前　東北大学総長		有・無
新保　博之	金沢市副市長		有・無
徳田　　博	石川県副知事		有・無
原田　明久	ファイザー株式会社代表取締役社長		有・無

山内　雅喜	ヤマトホールディングス株式会社取締役会長		有・無
渡辺　芳人	大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所所長		有・無

（注）　会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第１５条の４第１項第４号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（　有・無　） ・通報件数（年　１件） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（　有・無　） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（　有・無　） ・周知の方法 －　全職員へメールによる周知。電子カルテの掲示板掲載による周知。 －　金沢大学附属病院業務支援システムに規程を掲載。 －　医療安全研修による周知。

（様式第 7）

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1　果たしている役割に関する情報発信

①　果たしている役割に関する情報発信の有無	(有)・無
・情報発信の方法、内容等の概要 金沢大学附属病院Webサイトにて病院の基本理念、基本方針、各診療科の案内、統計データ等の情報発信を行っている。	

2　複数の診療科が連携して対応に当たる体制

①　複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	(有)・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 複数の診療科の連携をスムースに推進するため、センター、チームを設置している。 （ハートセンター、小児・成人炎症性腸疾患センター、緩和ケアセンター、 造血・免疫細胞療法センター、糖尿病センター、内分泌センター、乳腺センター、 プレコンセプションケアセンター、脳卒中・心臓病等総合支援センター、 糖尿病透析予防チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、 ICU早期離床・リハビリテーションチームなど）	